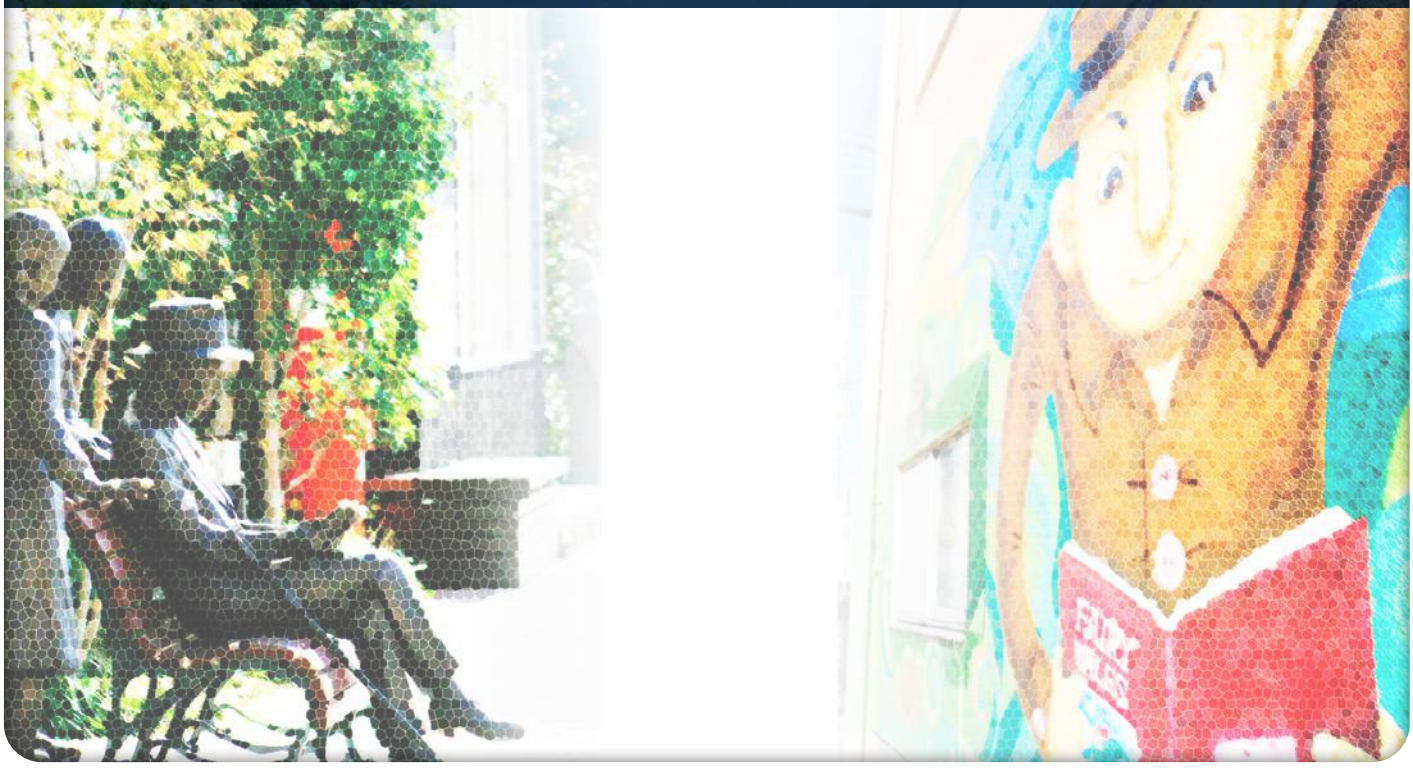
安城市

南吉まちづくり ガイドライン



目次

第１章「全体の考え方・現状分析」　１ページ

Ⅰ. 現状の分析

Ⅱ. 安城市が目指している到達点への考察

Ⅲ. ガイドラインの作成にむけての基本姿勢

第２章「観光の考え方」　４ページ

Ⅰ. 旅の観点

Ⅱ. 旅設計基本

第３章「南吉まちづくりガイドラインの考察」　８ページ

Ⅰ. ターゲットの考察

Ⅱ. 観光客（ゲスト）満足のための考察

Ⅲ. 安城市民（キャスト）から見た南吉観光の現状考察

Ⅳ. 南吉まちづくりガイドラインの考察総論

第４章「南吉まちづくりガイドライン」　15 ページ

Ⅰ.　南吉まちづくりガイドライン

Ⅱ.　ワークショップから抽出された安城の地域資源

Ⅲ.　地域資源の分類化

Ⅳ.　地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

付録：ワークショップ議事録　32 ページ

第１章「全体の考え方・現状分析」

分析

Ⅰ．現状の分析

安城市は「南吉が青春を過ごしたまち　安城」をキャッチフレーズにまちづくりを進めている。その結果、徐々に南吉作品や、南吉に関する情報などに触れ合う機会が増加しており市民への浸透も進んでいると思われる。

しかし、世代によってはまだまだ南吉に関心が薄い市民が多いことも事実であり、市民をあげてという状況になるには未だ道半ばと言わざるを得ない。

Ⅱ．安城市が目指している到達点への考察

安城市は「南吉まちづくり指針」（平成２６年３月）によって以下のような指針を打ち出している。

「まなび（教育／学習）」・「あそび（文化創造）」・「くらし（生活環境）」・「まちなみ（景観／基盤）」・「おもてなし（観光推進）」の５つのキーワードを設定し、それらが単独で機能したり、複数が連携しながら、南吉の生き方や物語に込めた想いなどを手掛かりに安城のまちの魅力を磨き上げ、発信していくことを通じて「もっと幸せに暮らせるまち」になること。

この指針に沿って現在行っている事業を整理すると以下の５つのジャンルに分けることができる。

①　啓発活動の推進「まなび（教育／学習）」

・新美南吉絵本大賞の実施
・南吉作品の朗読会の実施
・新美南吉のマンガ本「新美南吉－青春を過ごしたまち 安城－」の作成
・安城の南吉ガイドブックの作成
・小学生の南吉作品の朗読会等の実施など

②　イベントの開催「あそび（文化創造）」

・「新美南吉生誕祭」の開催
・「南吉たいそうハイ　ハイ　ハイ！」の普及
・「新美南吉かるた」の作成など

③　安城の持つ地域資源の活用「くらし（生活環境）」

・南吉グルメコンクールの実施

④　南吉にまつわるスポットの拡充「まちなみ（景観 / 基盤)」

・南吉ウォールペイントの拡充
・南吉モニュメントやオブジェの設置
・下宿先の整備と活用
・南吉館の活用など

⑤　観光的側面からの南吉の活用「おもてなし（観光推進)」

・南吉グルメの開発
・南吉さんぽマップの作成
・南吉探訪ガイドマップの作成
・デジタルサイネージの設置

このように、現在行っている活動をまちづくり指針に照らし合わせてみると、③･⑤についてはまだまだ不十分であると言わざるを得ない。今回のガイドライン作成にあたっては、③「くらし（生活環境)」と⑤「おもてなし（観光推進)」を充実させるとともに、①･②･④の活動を補完する必要がある。

Ⅲ.　ガイドラインの作成にむけての基本姿勢

前述のことから、今回のガイドラインの持つ性格は「新美南吉」を主体に PR するまちづくりを推進する指針である必要はなく、

① 安城を訪れた人々におもてなしの精神で接遇できる体制を整備すること。
② 「南吉」を安城の地域資源として再認識し、まちの魅力として発信していくこと。
③ 「南吉」という地域資源のブラッシュアップを図ること。

以上３点の条件を満たすガイドラインを作成することを目標とする。

第２章「観光の考え方」

観光

Ⅰ． 旅の観点

旅の観点として次の３つを重要視して設定する。

①旅の過ごし方をつくり、周辺のお客様を取り込む。
②南吉を安城の地域資源の一つとして開発。
③南吉だけでなく、満足度の高いコンテンツも用意できればなおよい。

Ⅱ． 旅設計基本

① コンテンツの設定

コンテンツの設定は、安城までのアクセス、時間、手段を軸にして設定する必要がある。

この時、住民になじみが薄い場所を開発しても、地域運動になりにくく、徐々にコンテンツが空洞化する傾向にある。また大切にする気持ちがないので、素材が荒れていく傾向にある点に注意する必要がある。（海とか山とかをハイカーが荒らしてしまうのはこの例）

まずは地域の住民が何らかに関わることが大切であり、今回のワークショップで上がったコンテンツを地域でつくりあげることと、それらを告知するタイミング、場所（近隣から来訪している観光地点での発信は有効）の精査は必要である。

② 観光形態の種類

【目的型と立ち寄り型】

目的型とは、「これを見たい、これを食べたい」というような目的をもってくる観光形態を指す。立ち寄り型は、「時間がある、ひとつ観光した後に、もうひとつどこか行きたい」という観光形態を指す。

南吉は、安城市の観光コンテンツのひとつだが、目的型と立ち寄り型それぞれに「南吉」を組み込み、開発していくことが必要になる。

【目的型】

目的型は、南吉の世界をきちんと提供できる視察ガイドをまとめ、一般観光客とは画したレベルのものが必要である。さらに、ワークショップにもでていた「農業」など活かすことを目的として、南吉をエッセンスとして取り入れる形で表現することもできる。この場合は、きちんと食べる、買うという行動につながる受け入れ体制づくりが重要である。

【立ち寄り型】

立ち寄りの最たるものは、「食事」「休憩」である。この時に、お客様は購入する意思があるので、きちんと案内をする事が必要になる。

これも南吉だけで終わらせることなく、他の地域資源を掘り下げて組み合せるなどの工夫が必要である。また食事や休憩で立ち寄った際、興味を引くコンテンツがあれば、散策のきっかけになることもある。

車社会において、観光客に歓迎されるのは無料駐車場である。公共施設の駐車場の開放など、物理的なおもてなしが立ち寄り型には重要である。

③　滞在時間

旅の滞在時間を長くさせる方法として旅行プランに「ガイド」の同行をオプションとして組み込む方法が挙げられる。旅行会社においても「ガイド」は重要なコンテンツとして注目しており、旅行商品のオプションや特典として用意されることが多い。

おもてなしガイドが各地方で開発されているが、何をお客様に提供するか、その内容の精査や、おもてなしが感じられる所作、声の出し方などの技術習得が求められる。特に提供する内容については前述「目的型」のお客様が満足する学芸員レベルから、同「立ち寄り型」のお客様がまち歩きを通じて「南吉」に触れるレベルまで、複数のレベルを想定した内容にする必要がある。

「ガイドツアー」の場合、一般的なツアー所要時間が１時間半程度であることから、「南吉ツアー」の場合、下宿先から通勤に利用した道を辿りながら、ウォールペイントや商店街を散策し、現在の安城市立桜町小学校までを巡るコースを基本プランとして設定する。そこに関連イベントやご当地グルメ、季節の花などを織り交ぜることでバリエーションのあるコース設定が可能となる。

また、チラシなどの印刷物はどこからどこに人が移動しているかの観察の上、効率的に配布しなければならない。

④　旅行会社との付き合い方

旅行会社の旅行は、一般的に、アクセスと宿が一体になったものと、バスで周遊するものと、アクセスだけ宿だけという単体のものがある。

旅行会社は、送客する人数が 1,000 人規模になるので、小さなイベントなどはなかなか旅行商品には組み入れられない。立ち寄りセールスを展開している地方自治体もあるが、

日程上効率よく立ち寄るためには、トイレ休憩を狙うのが一番よい。また、キャッチフレーズとして何か強い納得感のあるイメージと実をむすびつける下地作りが必要である。南吉の場合、ワークショップにでてきたような童話のふるさとというイメージでまちづくりをすることもできる。

⑤　まちづくりと旅

住みやすさと観光は、「まちづくり」において視点を変える必要がある。

決定的な違いは、観光客は日常ではない非日常を体験しているので、どこか特別感を求めている。住民に人気のお祭りであっても、外からきた人には疎外感が感じられたりするのはよくある話である。

コンテンツの優劣はさておき、販売しているもの、駐車場などの誘導などが地元の人目線になっていて満足度につながらない残念なケースもある。

視点をどこにおくのかは重要であるので、イベントを開催する場合は、住んでいる人と観光客とをわけてプランを考える必要がある。

⑥　観光客へのおもてなし

観光客が期待しているものの一つに地元の人とのふれ合いがあげられる。安城を一つのテーマパークと仮定するなら、観光客はゲストであり、安城市民は安城という舞台の重要なキャストと言い換えることができる。キャストには「ゲストの喜びが自分の喜び」と感じる、ホスピタリティ／おもてなしが重要となる。

格別背伸びをした接待をする必要はないが、地元の美味しいお店の紹介や、地元食材の紹介などちょっとした親切心がおもてなしに通じることを共通認識とする必要がある。

南吉まちづくりガイドライン

第３章「南吉まちづくりガイドラインの考察」

考察

Ⅰ.ターゲットの考察

①　地理的条件から見たターゲットの考察

主要な交通結節点から中心市街地までのアクセス

		主な交通結節点	距離	時間
自動車	東名高速道路	岡崎　I.C.	12Km	30 分
	伊勢湾岸自動車道	豊田東 I.C.	12Km	30 分
鉄　道	JR 東海道線	名古屋駅	35Km	25 分
	JR 東海道新幹線	三河安城駅	3Km	5 分
駅から自動車利用	名鉄本線	新安城駅	7Km	22 分

安城市は愛知県のほぼ中央に位置し、鉄道・道路ともに整備が進んでいる市である。主要な交通結節点から中心市街地までのアクセスを右図に掲示した。

遠距離からの観光客は名古屋駅または三河安城駅経由で中心市街地に来街すると利便性が高いことがわかる。

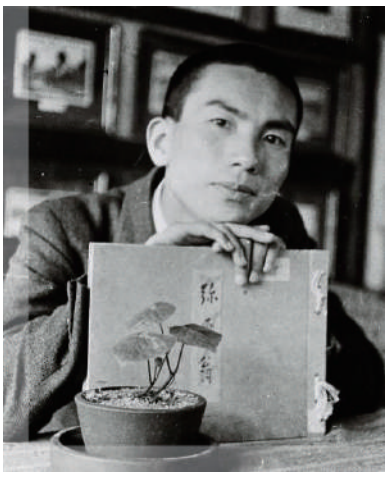
一方、自動車での観光の場合、大型バスでの観光と乗用車での観光の２つのケースを考える必要がある。

大型バスでの観光の場合、大型バスを駐車できるスペースが中心市街地には整備されておらず、デンパークに整備されているだけにとどまっているなど、大型バスでの観光は中心市街地へのアクセスが難しい状況である。

乗用車での観光の場合は、西は知立バイパスに、東は岡崎市に繋がる県道 48 号線からのアクセスも容易である上、JR 安城駅周辺には市営駐車場が整備されている。

これらのことから、ターゲットとしての選択は「個人観光客」をターゲットとすべきであり、アクセス方法としては鉄道を利用して訪れる遠方からの観光客と自動車を利用して訪れる近隣在住の観光客となる。

②　「南吉」というコンテンツの性質から見たターゲットの考察



南吉は「東の宮沢賢治、西の新美南吉」と比較されることも多い。その作品を比較すると、宮沢賢治の作品はおおむねシニカルに描かれている。一方、南吉の作品は情緒深い作品が多いことに特徴があり、メルヘン色の強い童話作家と認知されている。このため、1956 年に大日本図書の国語教科書に採用されて以来、小学校国語教科書の教材の定番となっている。さらに 1998 年、インド･ニューデリーで行なわれた国際児童図書評議会で美智子皇后陛下が行った基調講演の中で南吉の作品『でんでんむしのかなしみ』が取り上げられるなど、その作品は広く知られている。

これらのことから、安城市民が認識する以上に童話作家・新美南吉の認知度は高く、全国規模でコア／熱心な南吉ファンが存在すると推測される。

③　ターゲット考察の総論

上述の通り南吉は全国的に知名度のある童話作家であるが、現状、安城市民の間では全国規模で団体観光客を引き込むほどの魅力ある地域資源とは認知されていない。

また中心市街地区域内の大型バスに対応できる駐車場の整備などが進んでいない現状もあり、団体客の受け入れ態勢が整っているとは言い難い。これらのことを踏まえると、南吉観光目的で安城を訪れるのは個人観光が主であり、団体旅行の多いケースと比較すると来街人数はそれほど多くない。しかし、交通アクセスが良好である地理的優位性を合わせ考えると、コアな南吉ファンを広く全国規模で誘致することは十分実現可能なものである。

また、ライトな（気軽な）立ち寄り型の個人観光という側面から考えると、自動車を利用した近隣地域からのアクセスは容易であり、手軽に来街できると思われる。

以上より、安城の観光ターゲットは「主に鉄道を利用して全国からやってくる“聖地巡礼”を目的としたコアな南吉ファン」と、「主として自動車を利用し近隣地域から来街するライトな立ち寄り型の南吉ファン」の２つがターゲットの柱と想定できる。

Ⅱ．観光客（ゲスト）満足のための考察

①　コアな南吉ファンがゲストの場合

このゲスト層は南吉の下宿先や通勤路、勤務先である安城高等女学校跡など南吉が生活した場をたどることで南吉の暮らしぶりに思いをはせる、いわば「聖地巡礼」が旅行の主たる目的である。そのため、このゲスト層を満足させるには、南吉の暮らしぶりを偲ばせる「南吉スポット」の整備が必須であり、さらにスポット周辺には当時の時代風景である、昭和初期のノスタルジーを想起させる演出があればゲスト層の満足度はさらに高まり、高いリピート率が期待できる。

※「聖地巡礼とは」

アニメや漫画などの舞台となった場所や物語・登場人物にゆかりのある場所のことを「聖地」と呼び、その場所へ行くことを指し、近年ファンの間で定着しつつある。

聖地とされた場所の地元商工会や自治体がこの現象を地域振興に活用するようになったことが大きく関係していると思われる。

「らき☆すた」の聖地とされた埼玉県鷲宮町（と鷲宮神社）は、この聖地巡礼によるまちおこしで数千人から数万人単位の訪問者と１億円超の経済波及効果を生み出すことに成功したとされている。

②　ライトな南吉ファン／立ち寄り型のゲストの場合

宮沢賢治ファンや坂本龍馬ファンなど偉人ファンは多く、ゆかりの地を訪れる観光ツアーは多い。ただし、偉人への思い入れの程度によっては、スポット訪問を通じてお目当ての偉人に思いをはせることを至上目的とするのでなく、スポットを巡りながら同時に地元グルメやまちの雰囲気を楽しむことを指向する偉人ファンも少なくない。

前述の宮沢賢治ファンで考えるならば、宮沢賢治の生家等にも立ち寄るが、岩手の田園風景を観光したり、地元特産のリンゴや地元料理で有名なわんこそばを食べたりすることで満足感を得ていると考えられる。

これらの状況を安城に当てはめると、南吉の下宿先等に立ち寄った後、安城の地域資源

（例えば、安城の特産品を素材に使用した料理や、まちの風景、農業風景）を楽しむことで満足感を得られるのではないかと考える。

安城の地域資源をブラッシュアップし、南吉作品のもつメルヘンの世界を強調した風景づくりがゲスト満足に直結し、高いリピート率を実現するとともに、いわゆる口コミを通じて新たに観光客を呼び込むことにつながると考えられる。

Ⅲ. 安城市民（キャスト）から見た南吉観光の現状考察

安城市が主導して、中心市街地内に多くの南吉観光スポットが整備されてきた。しかし、比較的短い期間での事業推進が原因で、整備目的が市民の間で十分浸透しておらず、南吉のまちづくりに対する市民の理解に温度差が出ていることも事実である。このままの状態が続くと温度差はさらに広がり、南吉の世界に浸ることを期待して安城を訪れるゲストが期待と現実の間に大きな落差を感じ、結果として観光上大きなマイナスの生じることが懸念される。

この懸念材料を払拭するためには、安城のまちが持つ地域資源のさらなる活用と、キャストとなる市民や商業者にとって南吉がこれまで以上になじみある存在となるよう、理解しやすいキーワードや事業の方向性を打ち出し、温度差の解消に努める必要がある。

安城のまちがもつ地域資源

【日本デンマークとアンデルセン】

明治用水の開通以降、開拓が進み農業地として成長していった。それにあわせて、農林学校の誘致をすすめ、農業の多角化・共同化が実施されたことから、日本の農業先進地域として 1920 年代には「日本デンマーク」と呼ばれるようになった。

この歴史を踏まえて、市内赤松町に開設された自然と親しみ花のある暮らしを提案する花と緑のテーマパークは「安城産業文化公園デンパーク」と命名され、年間 50 万人ほどの来場者で賑わっている。

また、JR 安城駅からデンパークに向かう主要道路はフラワーロードとして整備され、南吉も敬愛したデンマークの童話作家アンデルセンの童話をモチーフにしたモニュメントも点在している。北欧デンマークとの親和性や、市街地から比較的近くに田園風景が広がることで受けるのどかなイメージは安城の地域資源といえる。

【安城七夕まつり】

安城七夕まつりは日本三大七夕まつりをキャッチフレーズに開催してきたが、第 55 回安城七夕まつりからは「願いごと、日本一。」を掲げ、願いごと風船や短冊など「願いごと」イベントとして独自色を打ち出してきた。また第 60 回安城七夕まつりでは一本の竹に掲げられた短冊の数でギネス世界記録に認定されるなど「願いごと」を強力にアピールし、近年では 3 日間の開催時に 100 万人以上の来場者を実現している。中心市街地商店街においても「願いごとのまち」や公式キャラクター「きーぼー」をモチーフにしたイベントを企画・共催し、まちを挙げたまつりの一体感を演出している。

Ⅳ.　南吉まちづくりガイドラインの考察総論

①　新美南吉と地域資源を生かしたワードの抽出

安城のもつ地域資源である「日本デンマーク」や「デンマークとの親和性」、「田園風景」といったコンテンツは近未来的なイメージではなく、郷愁や寓話的なイメージを想起させる。

南吉の童話の世界感も同じく、郷愁や寓話的なイメージを多く持っており、現在の南吉ウォールペイントやモニュメントも、この世界感に合わせるように製作されている。

このことから、ビジュアル的キーワードとして「メルヘン」が安城のまちの地域特性を表すキーワードと位置付けることができる。

もう一方の地域資源である「安城七夕まつり」とこれに連なる一連のコンテンツは根底に、願いごとを通じて夢の実現に向かう人々のひたむきな想いが込められている。

これは童話作家を志し、安城でその夢を叶えた南吉と通じるところでもある。

このことから、「安城のまち」がもつ地域特性を表すマインド的キーワードは「夢」であると結論づけた。

②　南吉まちづくりガイドラインの目的

「メルヘン」と「夢」、2 つのワードを基に、今回のワークショップで抽出された地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案とを結び付け、キャスト／安城市民が今後の南吉まちづくりを理解しやすいキーワードとして、**「童話のまち　安城」**を導き出した。

これにより、南吉まちづくりガイドラインは

①「童話のまち　安城」をキーワードとして、南吉の地域資源と他の地域資源の融合を図る。
②　全国から訪れる目的型観光客であるコアな南吉ファンと、近隣地域から訪れる立ち寄り型観光客であるライトな南吉ファンを満足させ、再来街を促進させる。
③　安城のまちの持つ魅力を向上させ、賑わいのあるまちづくり、幸せに暮らすことのできるまちづくりを推進する。

ことを目的として策定する。

第４章「南吉まちづくりガイドライン」

南吉まちづくりガイドライン

Ⅰ．南吉まちづくりガイドライン

①　適用範囲

南吉の通勤路にあたる安城市新田町の下宿先から現桜町小学校までのエリア。特にＪＲ安城駅周辺商店街エリアを重点エリアとする。

②　目的

南吉をはじめ、安城のまちの魅力を余すことなく伝えることで来街者の満足度を向上させ、再来街を促進させる。安城のまちのブランド力を向上させ、賑わいのあるまちづくり、もっと幸せに暮らすことのできるまちづくりを進める。

③　今後の取り組みについて

ガイドラインで設定した５つの項目の実現に向けて、今後は中心市街地活性化協議会のにぎわい創出プロジェクト、商業活性化プロジェクト等を通じて、商店街振興組合、町内会、市民活動団体等と協働して推進することとする。

【まなび】　●南吉や安城七夕まつりなど、安城の地域資源の理解を深めることに努める。

【あそび】　●南吉を冠するイベント以外のイベント開催時にも「童話のまち　安城」を意識し、より安城の地域色が強いイベントになるよう努める。

【くらし】　●特産品を使用した料理の開発など地産地消を推進し、のどかな田園風景を呼び覚ます暮らしをつくる。

【まちなみ】　●「童話のまち　安城」を意識し、南吉モニュメント等を活用して、様々な人が盛んに交流するまちづくりを進める。

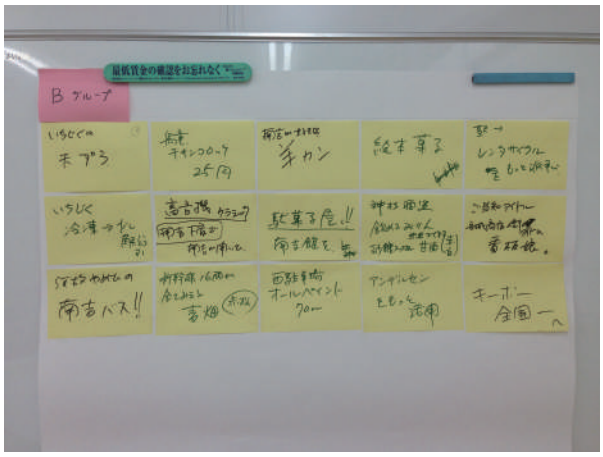
【おもてなし】　●安城に来訪した観光客へのおもてなしとして南吉ウォールペイントツアー等を実現するため、南吉ガイドの育成に努める。

●来訪者がお土産や地元グルメとして利用できるような、安城の特産品を生かした商品の開発や提供に努める。

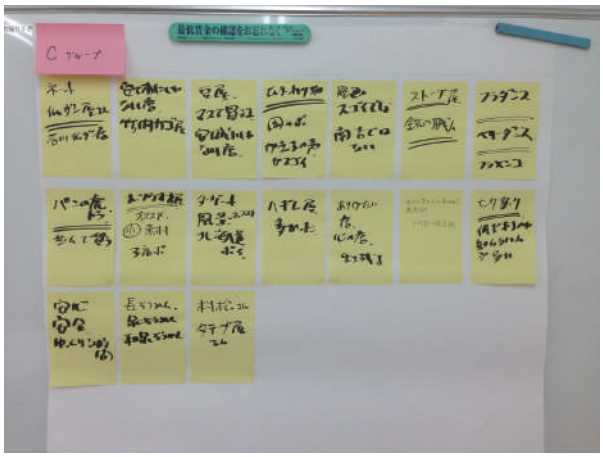
Ⅱ．ワークショップから抽出された安城の地域資源

①　第１回ワークショップ終了時に掲出された地域資源

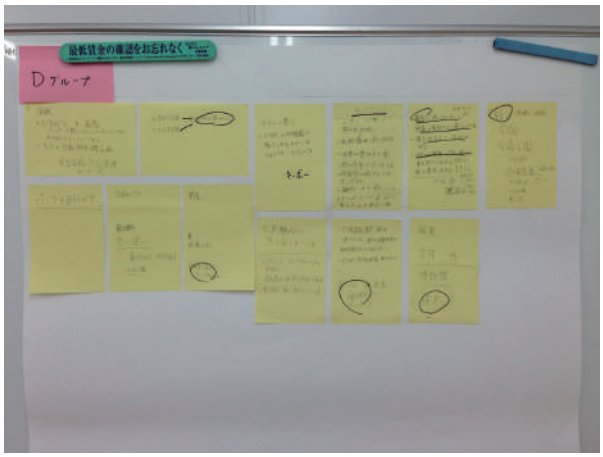
Aグループ



Bグループ



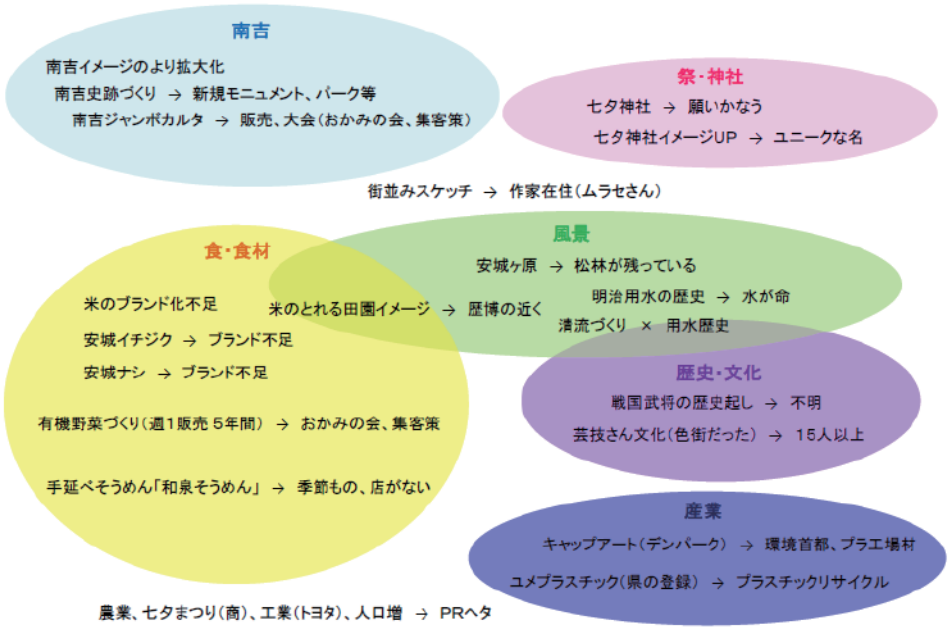
Cグループ



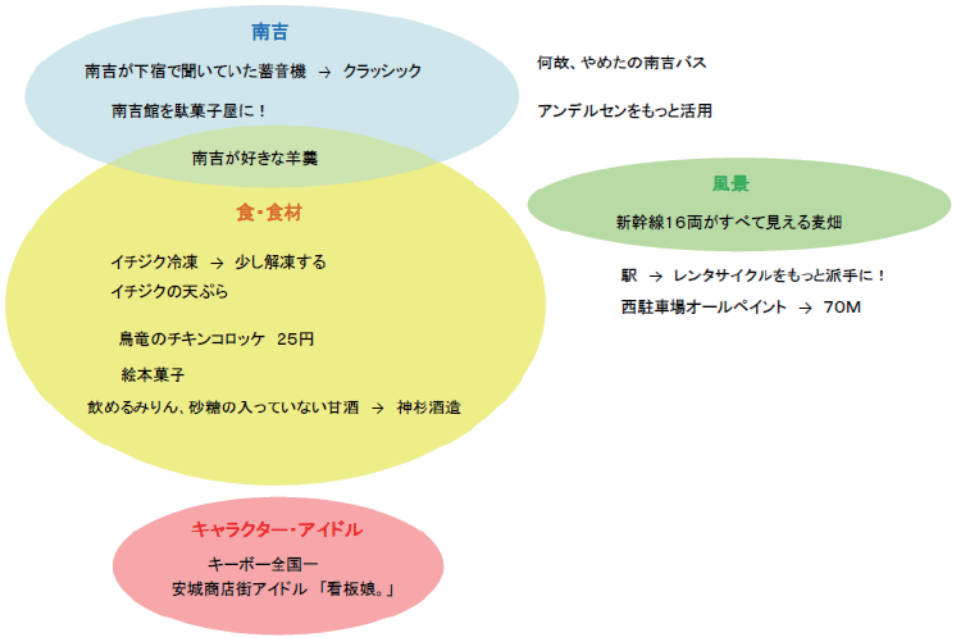
Dグループ

Ⅲ．地域資源の分類化

A チーム　抽出ワード

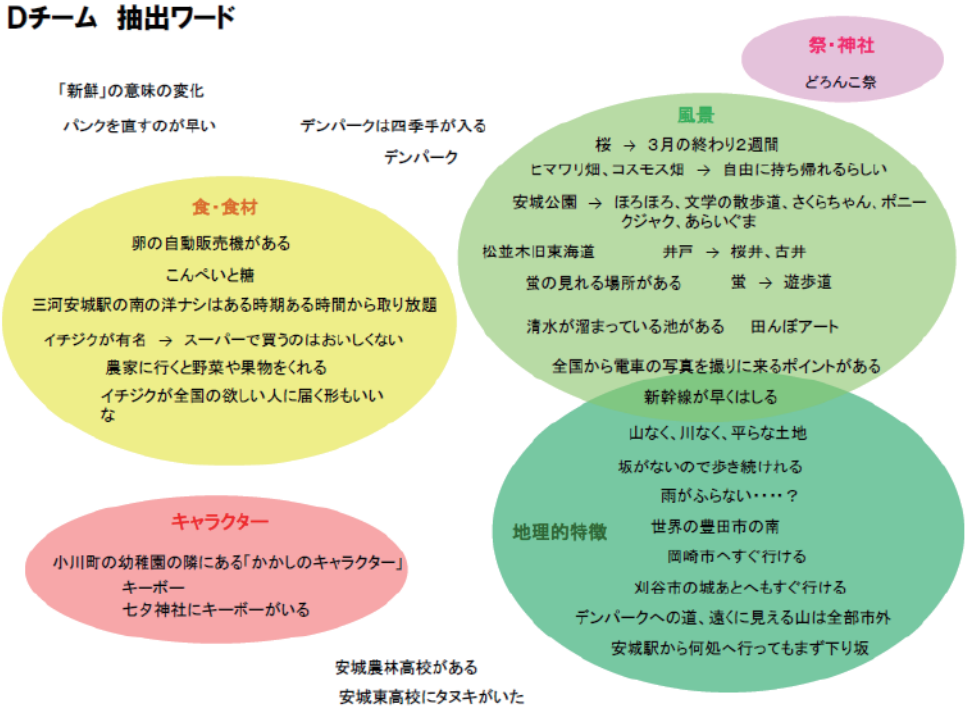


B チーム　抽出ワード



C チーム　抽出ワード

Dチーム　抽出ワード



Ⅳ. 地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

① A グループ１

事業名称	南吉が過ごした安城の映画化「新美南吉と安城～南吉が見た夢」
目　　的	外部発信型の映画を創作し、南吉が住んでいた安城の PR として活用
ねらい	南吉が見た夢や安城のまちを紹介する
指針ワード	（まなび）／　あそび　／（おもてなし）／　まちなみ　／（くらし）
展開概要	●展開概要 「第二のふるさと」安城で作家時代、教師時代、そして 29 歳 7 ヶ月でその生涯を閉じた南吉の生涯を映画化し、全国公開することで話題を醸成する。 南吉が過ごした下宿、通った道、安城高等女子学校での出来事、様々な人との出会い、執筆活動、そして病との闘い。感動秘話を元に、映画「新美南吉の生涯～南吉が見た夢」の物語を映画化。 ●展開要素 映画制作スタッフには、専門家を起用してメジャー化できる内容とする。 要素としては、南吉が見た夢、当時の安城の風景、生活場所など、現存しているエピソードで構成。 同時に、住んでいた頃の安城と現在の安城を紹介する今昔ものがたりで、懐かしい安城とこれからの安城を想像することができる。 出演者は、一部の専門家（タレント、演劇経験者など）に加え、多くの市民が登場する。 参考事例 戦前カナダに実在した伝説の野球チーム。その栄光と奇跡の記録。1914 年～1941 年まで、カナダ・バンクーバーに実在した日系カナダ移民の二世を中心とした野球チーム。地元のアマチュアリーグに参加し、サムライの原点とも言えるバントやヒットエンドランを駆使したスモールベースボールでカナダ人野球チームを打ち破り、西海岸リーグのチャンピオンに！2014 年 12 月 20 日公開。 キャスト：妻夫木聡、亀梨和也、上地雄輔、勝地涼、池松壮亮ほか。スタッフ：監督　石井裕也、脚本　奥寺佐渡子ほか。配給：東宝

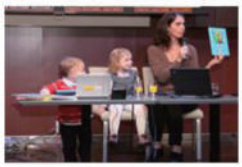
Ⅳ. 観光資源を活用した理想的な事業のイメージ案

② A グループ２

事業名称	地元高校生が造りだす農業ふるさと名物づくり
目　　的	安城農林高校や安城高校などの若い世代から、安城のふるさと名物を創作
ねらい	南吉の時代にも実践された先進的農業経営の精神を引き継ぐ
指針ワード	（まなび）／（あそび）／（おもてなし）／ まちなみ ／（くらし）
展開概要	●展開概要 地元産の農業産品を利用した「ふるさと名物」を地元高校生が主体となって創作する活動。発表の場として、「安城南吉農業まつり」を開催し、高校生を主体とした創作商品・グルメ・生産技術などの農業力を披露するとともに、ダンス・仮装・昔の遊び大会など、「若者の街・安城」イメージを創り出す。 いちじく、和泉そうめん、有機野菜、なし、こめ、安城牛、清酒、はちみつ、お茶など多くの農産品から、新規のふるさと名物を開発していく。 ●展開要素 ○高校生の創るふるさと名物 いちじくワイン、おしゃれそうめん、安城牛ハンバーグなど、高校生らしい発想のふるさと名物を創作。 ドライいちじく いちじくヨーグルト イチョウの清酒（清須プリンセスギンコ） キラキラそうめん アボガドとトマトのの塩麹そうめん ○安城南吉農業まつり 有機野菜市、高校生創作市、ふるさと名物市など「名物市」の農業まつりとする。 併せて、若者のイベント（ダンス、仮装、昔の遊び大会など）で盛り上げる。 農業まつりイメージ

Ⅳ．地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

③　A グループ３

事業名称	世界の童話の国フェスティバル
目　　的	「世界中の童話が語られる街・安城市」を創り出す
ねらい	世界の童話紹介とその地域の紹介をすることで、国際多文化交流をめざす
指針ワード	（まなび）／　あそび　／（おもてなし）／　まちなみ　／（くらし）
展開概要	●展開概要 世界各地の童話や昔話を紹介する国際交流会を開催。その作者や地域の紹介を通じて、それぞれの国や地域との交流を深めるためのサミットを開催する。 毎年一回の開催とし、その都度、紹介される童話・人・エピソードなど、多文化と触れ合うことができる。 アンデルセン（デンマーク）、不思議の国アリス（イギリス）、オズの魔法使い（アメリカ）、グリム童話（ドイツ）、宮沢賢治（日本）、日本昔話（日本各地）など、さまざまな国や地域との接点を持ち、楽しい文化交流の場を形成していく。 ●展開要素 ○童話ふれあい交流会 童話の読み開かせ会や絵本展など、子どもたちへの夢を育むふれあい交流会 読み開かせ会事例 ○童話トークショー 童話に纏わるエピソードなど、童話の世界により深く親しめるトークショー  親子のトークショー ○童話世界の疑似体験 その童話の世界を実体験できるような情景を再現し、童話や昔話の中の夢や世界観を体験コーナー 体験ジオラマ事例 交流パーティ事例 ○おもてなし交流会 日本の各地や海外の人たちとの交流会 アトラクションでは、子どもたちによる童話演劇発表会なども披露する

Ⅳ. 地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

④ A グループ４

事業名称	南吉夢まつり～夢奉納と南吉神楽～
目　　的	南吉が夢見たこころを見習い、市民一人ひとりの「夢チャレンジ」
ねらい	夢見る豊かなこころの醸成と夢にチャレンジする行動力の発信
指針ワード	（まなび）／（あそび）／（おもてなし）／ まちなみ ／（くらし）
展開概要	●展開概要 市民参加による「自分のこれからの一年間の夢」や「夢にチャレンジした一年間の行動」を発表する「南吉夢まつり」を開催。併設として、七夕神社では南吉神楽セレモニーと昭和縁日フェスティバルを実施。 七夕まつりの祈願に対し、南吉夢まつりの夢奉告で、夢にチャレンジするこころを育んでいく。 ●展開要素 ○夢発表会 事前に選定された個人（グループ）が、これから一年間の夢発表。また、いままでの一年間の夢チャレンジの発表を行う。 今年度の夢大賞などの名誉賞を創設 英語発表会事例（仮装発表会） ○南吉神楽セレモニー 七夕神社において、選抜された市民グループが御神楽の競演を行う。 主役は子どもたちで、新規創作した御神楽の披露。衣裳や小道具は大人たちが制作協力する。 コンテスト形式で、優秀賞などの名誉賞を創設する。 御神楽事例（石見神楽） ○昭和縁日フェスティバル 七夕神社境内一帯で、南吉が住んでいた時代（昭和初期）をイメージした懐かしい縁日風景で展開する。 出店は市民グループや商店主のグループとし、地元からの発案した屋台市を形成。 夢に因んだ商品や、夢に絡んだグルメなども創作する。 昭和縁日事例 夢グッズ事例 夢グルメ事例

Ⅳ. 地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑤ Ｂグループ１

事業名称	南吉の創作演劇　～新美南吉の夢見た世界～
目　　的	南吉が夢を抱いた世界を演劇に書き起こして定期公演を行う
ねらい	市民参加による演劇を公演することで、市民に親しみをもってもらう
指針ワード	（まなび）／　あそび　／（おもてなし）／　まちなみ　／（くらし）
展開概要	●展開概要 南吉の人物像や安城に住んだ時代、彼の夢見たコトを演劇の脚本として書き起こし、市民による演劇発表会を行う。 脚本家、演出家は専門家に依頼し、出演者は地元市民から募る。 毎年定期的な公演として、その都度、参加者は募集をしながら新鮮さを継続する。 また、演劇を通して南吉への深い愛着を持つとともに、安城への誇りを持てるような演劇パフォーマンス運動としていく。 ●展開要素 ○演劇公演事例（愛知万博　愛知県館～地球タイヘン大講演会～） 長久手愛知県館は「地球タイヘン大講演会」という演劇を公演。 深刻な地球環境問題を、わかりやすく体感していただく 20 分間のステージショーとなっている。（脚本・演出　横内謙介氏） ○脚本・演出家（扉座の横内謙介） 扉座とは・・・横内謙介、岡森諦、六角精児、杉山良一を中心に、善人会議という名称で旗揚げ。'93 年扉座に改名。演劇公演、新人育成等を行っています。また、厚木にて市民（応援団）・厚木市文化会館と 3 者で「厚木シアタープロジェクト」を結成。地域からの創造発信、地域の人材育成、出前の演劇体験教室など様々な活動を展開しています。

Ⅳ．観光資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑥　Ｂグループ２

事業名称	安城　南吉音楽物語～童話から学ぶ南吉の思い～
目　　的	南吉童話と南吉が好きなクラッシックを融合させた創作劇を行う
ねらい	市民参加による創作劇の公演を行い、市民活性に繋げる
指針ワード	（まなび）／　あそび　／（おもてなし）／　まちなみ　／（くらし）
展開概要	●展開概要 南吉童話や南吉が好きなクラッシックを融合したオリジナル劇を、市民募集し発表公演を毎年開催する。歌、コーラス、ダンス、舞踊、演奏、芝居、仮装等が組合わさったオリジナル創作劇。 多く市民・団体がチャレンジ、参加できるようにショートストーリー劇を募集する（１５分程度）。 ●展開要素 ○「夢」をテーマにした創作音楽劇 テーマは「夢」一つ、表現方法は様々な手法を使った創作演劇を展開。 参加者は自己の得意とする表現方法を使って観覧者に「夢」をアピール。 毎年開催し、夢を持つことの大切さを伝え感じさせる。

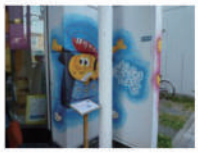
Ⅳ．地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑦　Ｂグループ３

事業名称	南吉マンガ本制作
目　　的	南吉の人物や時代背景、童話作品などを物語風のマンガ本として制作
ねらい	子どもから大人まで、南吉に親しみをもってもらう
指針ワード	（まなび）／（あそび）／ おもてなし ／ まちなみ ／ くらし
展開概要	●展開概要 南吉の人物やその時代背景、また、童話作品のエピソードなどをマンガ本として刊行する。 子どもから大人まで、幅広い層に南吉をわかりやすく紹介する読本版。 編集手法は、専門家委託方式・雑誌社タイアップ方式、著名作家起用方式などの、地元にあった手法の検討をする必要がある。 ●展開要素 ○マンガ本参考事例 【小牧市　まんが　織田信長公伝「麒麟の城」販売開始】 次代を担う子どもたちに織田信長公と小牧との関わりを学んでもらい、郷土への愛着と誇りを持ってもらうことを目的として、歴史を学び始める小学校高学年から中学生向けの漫画を作成した。小牧山城を築城し、岐阜城に移る頃までの信長公についてわかりやすく、魅力ある人物として描かれている。 【ひみつシリーズ 32　　学研　世界の偉人まんが伝記事典】 世界の偉人 115 人を漫画で紹介したもので、他のひみつシリーズと比べて、かなり分厚い装丁となっている。偉人伝というと一人の人物に対して、かなりのページを割いて、生い立ちなどを紹介していくのが普通だが、本書では１人あたり２～４ページ程度の紹介となっている。 【人気マンガ　　空想の信長奮闘記（TV ドラマ化された）】 ごくごく普通の今どき高校生サブロー。そんなサブローがひょんなことから飛ばされたのは、なんと戦国時代！　そう、彼はタイムスリップしてしまったのである。自分の人生に日本の歴史なんてこれっぽっちも関係ないと思っていたサブロー。そんな彼がこの時代で出会ったのは、あの織田信長であった。歴史上とは似ても似つかないほど病弱な信長に驚くべき頼み事をされる。それは、信長とサブローが入れ替わることであった…乱世で生きることとなってしまった平成育ち信長の奔放奮闘記もの。

Ⅳ．地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑧　Ｂグループ４

事業名称	南吉エピソードツアー
目　　的	南吉ゆかりの地を廻り、安城のまちの魅力を感じて貰う
ねらい	訪れる人々と交流を持つ事によって、安城の魅力を磨き発信する
指針ワード	（まなび）／ あそび ／（おもてなし）／（まちなみ）／ くらし
展開概要	●展開概要 南吉の過ごした安城のまちを来訪者に知ってもらい、楽しんでもらえるような観光コースを策定し、南吉エピソードツアーとして参加者を幅広く募集する。 「また来たい、ずっと住みたい」と思って頂ける人を増やし、安城のまちづくりに生かす。 ●展開要素 ○南吉ゆかりの地コース 教師として過ごした女学校跡、下宿先、行きつけの店、作品のヒントになった商店街を自由に周れるように安城駅前にガイドマップとレンタル自転車を設置。 南吉エピソードクイズを織り交ぜ、安城のまちと南吉の縁を知ってもらう。 安城高等女学校址碑 ででむし詩碑 南吉の下宿先 レンタル自転車 ○駅前・商店街童話壁画語りコース 南吉作品を題材にした商店街の壁画を「語り部ガイド」と共に徒歩でめぐり、童話のシーンや南吉のエピソードを聞きながら、南吉童話の世界を楽しむ。 １回/１０人程度として募集をする。 

Ⅳ．　地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑨　Ｃグループ１

事業名称	農業おもしろ体験プロジェクト
目　　的	「農業の街　安城」を PR するため、年間を通じた事業の創出
ねらい	地元市民参加と来訪者参加をねらいとして、みる・たべる・あそぶのイベント化
指針ワード	（まなび）/（あそび）/（おもてなし）/　まちなみ　/　くらし
展開概要	●展開概要 安城市の商店街で農産物（安城市の様々な職人技術）を中心にマーケットを展開。旬の野菜や商品など通常では売っていない商品を商店街が中心に販売を担う。 指定観光農地を決め農業体験、職人見学ツアー、収穫祭等を商店街が盛り込み情報を発信して行く、地域の顔としての商店街が地域や観光客との交流などを繋ぎ安城市をＰＲする。 ●展開概要 ○安城マルシェ 月に２回等の設定で安城ならではの農産品の朝市を開催 ○農業体験（田んぼアート） 農業体験を募集し、併せて田んぼアートづくりに参加し、完成した頃にまた参加者が来訪し、完成収穫を喜べるような交流イベントを開催。 ○食のアート展 安城で収穫された食材を使ったアート展の開催。例えば、おにぎり、パン、野菜、果物などにカテゴリー分類。市民による投票を実施し、カテゴリーごとに優秀者を表彰。

Ⅳ．地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑩　Ｃグループ２

事業名称	安城駅環境演出プロジェクト
目　　的	「南吉の発信は安城駅から」をコンセプトに、駅周辺の施設を環境演出する
ねらい	安城は「童話のまち、童話に親しむまち、童話を大切にしているまち」を発信
指針ワード	まなび　（あそび）/（おもてなし）/（まちなみ）/　くらし
展開概要	●展開概要 安城駅及び駅周辺の、掲示板、照明、ベンチ、自動販売機、音楽等を南吉の時代や南吉のイメージに合わせた環境演出を行う。また期間限定で南吉をテーマにした飲食イベントを開催。 ●展開要素 ○シンボルオブジェ（からくり時計） 駅周辺に南吉シンボルとして、南吉からくり時計（時報は南吉の童話を語り部として流す）。安城市には鉄の職人が多く見られる（薪ストーブ職人等）のでその技術の PR も含め展開できる事が望ましい。 ○童話の世界の環境演出。 駅舎・駅周辺に童話の世界をイメージさせる光と造形で来訪者に童話のまち安城のイメージをアピールする。 ○南吉昭和横丁（期間限定ビアガーデン） 昭和初期の南吉の居た時代をイメージさせるビアガーデンを駅周辺駐車場、倉庫等で開催。南吉グルメ、語り部コーナー、ワークショップ等も併設し市民参加型の大人から子供まで楽しめるイベントを開催。

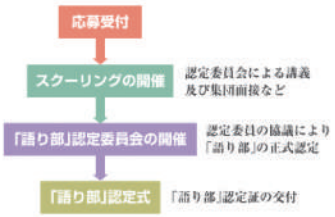
Ⅳ. 地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑪ Ｃグループ３

事業名称	やろまい南吉検定プロジェクト
目　　的	安城市独自の南吉スペシャリストを設定し、南吉好きの量産化を図る。 半田市とは異なった目線で南吉を捉え、全国レベルでの拠点として安城市＝新見南吉の確立を目指す。 またそれらを高齢者将来の新たな生き甲斐に繋げる。
指針ワード	（まなび）／ あそび ／（おもてなし）／ まちなみ ／（くらし）
ねらい	観光／市民運動／ブランド／イベント／商品開発
展開概要	●展開概要 南吉検定を行ない、語り部編、童話編、人物編、アート編などの内容別、年代別に区分して、部門別南吉賞を授与する。 上位合格者には「南吉マイスター」としての称号を授与し、安城南吉の語り部として、安城観光の PR 役やおもてなし役を担って行く。その先には全国から南吉ファンを集め南吉検定全国大会などのイベントに発展させる。 合格者には、合格証と合格バッジがもらえる。また、合格特典として、市内の公共有料施設の優待券やゆかりの地の優待券がもらえる。 ●展開要素 南吉検定試験を実施するためには、南吉検定テキスト本制作が必要となり、その執筆者、編集者、取材者、出題者などの制作チームが必須となる。また、南吉検定セミナー開催の実施や検定ツアーなどの、事前の学習カリキュラムなどのサブプログラムも併設する。 名古屋城検定本 岡崎城検定本・問題本・合格証・合格バッジ

Ⅳ．地域資源を活用した理想的な事業のイメージ案

⑫　Ｄグループ１

事業名称	安城語り部プロジェクト
目　　的	南吉を通じて、安城市民の生きがいと誇りを醸成する。
ねらい	「語り部」となる市民を育成し、南吉を通して安城の魅力を発信。
指針ワード	(まなび) / あそび / (おもてなし) / まちなみ / (くらし)
展開概要	●展開概要 南吉が教育者として過ごした安城市。インターネットでは育まれない創造力を教育の中に取り入れ、心のコミュニケーションを通して、安城市を語り部の住む町とする為に、今いる語り部の協力を得て、認定制度を設けて市民を新たな「語り部」として認定し、親から子、孫へと受け継ぐ。 様々な活動や来訪者へのおもてなしを通して市民意識を盛り上げる。 ●展開要素 ○「語り部」認定制度 事務局開設：市役所・観光協会等と連携し設置 応募基準：安城市民及び安城市に縁のある方 養成講座：南吉カルタ等を取り入れた「語り部」養成カリキュラムの作成 認定基準：（1）子供部門　（2）親部門（3）じじ、ばば部門（4）ガイド部門 応募から認定までの流れ  語り部養成講座 ○「語り部」スポットと観光ガイド イベント時などに街中に「語り部」スポットを開設し活躍をして頂く。 観光客から依頼があった時などは、認定者がおもてなしを兼ねてガイドを務める。 観光ガイド

付録「ワークショップ議事録」

付録

Ⅰ．南吉でつながるひろがるまちづくりワークショップ第１回議事録

日時：2014 年 11 月 5 日（水） 19:00 ～ 21:30　場所：クリエーションプラザ２階

出席者：全体ファシリテーター：木村ともえ・アシスタント：熊岡猛・西川鉄也
グループ A: 古野克彦（ファシリテーター）小島（記録）丹羽修・古居有三・浅井勝
・名倉弘二・伊藤佳子・吉田央
グループ B: 神谷敏幸（ファシリテーター）・深谷（記録）沓名秀治・菅沼賢治・大見博昭
・澤田喜久子・石原玉子
グループ C: 石森克往（ファシリテーター）・榊原（記録） 野田全尾・築山智幸・鈴木利夫
・鈴木雅喜・白谷隆子
グループ D: 大野智子（ファシリテーター）・佐野（記録） 近藤芳弘・沓名好子・野村直人
・長谷部裕之・鈴木ゆかり
オブザーバー： 安城市商工課　１名　南明治整備課　１名
他：安城市企画政策課：仲道雄介・沓名広紀・蜂須賀知子
（株）安城スタイル：鶴田香也乃

式次第
１．開会のことば　㈱安城スタイル代表取締役社長　鶴田香也乃
２．あいさつ　安城市企画政策課課長補佐　仲道雄介
３．南吉まちづくり及び本ワークショップについての趣旨説明
安城市企画政策課プロジェクト推進係　沓名広紀
４．ワークショップ　ワークショップファシリテーター
㈱ＪＴＢ中部地域交流推進課長　木村ともえ氏
５．　次回ワークショップの確認　　日時：１１月２１日（金）１９：００～
場所：クリエーションプラザ２階
６．　閉会のことば
㈱安城スタイル代表取締役社長　鶴田香也乃

２１：３０終了

２．あいさつ　安城市企画政策課課長補佐　仲道雄介
仲道：安城市が主体となって進めてきた感がある南吉に関連した事業を、違う側面
で掘り下げてもらえたら、今後の活動に生かしていけると思います。

３．　南吉まちづくり及び本ワークショップについての趣旨説明
安城市企画政策課プロジェクト推進係　沓名広紀

全体の議事録

沓名：H23 年度～愛知県の事業として、南吉ペイント。H24 年度～街の動きを受けて南吉生誕祭、様々な南吉プロジェクトを進めてきました。市役所が勝手にやっている感がありますが、もう一度、せっかくある資産なので活用されればいいなあと思います。また、遠くから「南吉」で来安している実態があります。
私たちが知らない所で南吉を知ってくれている、来てくれている。これから、安城に来てくれる人を増やしたい。市役所が勝手にやっているでは、何とも寂しいです。来安者には、南吉に限らず七夕・デンパーク・きーぼー etc. 紹介してもいいと思います。
昨年、南吉まちづくり指針ができ、理屈が後になって悪いのですが、南吉のまちづくりとはこんな事ではないのか、南吉＝要素としておもてなし、来安者対応はどうしたらいいか、皆さんで作ってください。

４．　ワークショップ　　㈱ＪＴＢ中部地域交流推進課長　　木村ともえ氏

木村：観光のパンフレットを作るのにも、街の人の声をひろう。地域の声をひろう、どんどん意見を出して欲しいです。
（リーフレットに基づいてのアイスブレイク）
チェック→集計「満足」の集計結果を見てもバラバラ、感じ方が各々バラバラである。自分が良かれと思ってもダメ、自分の物差しではダメ。安城の人は（今日の参加者）やさしい、サービス業に対して、もっと厳しい地域、所もあります。誰が、何に満足するのかは年々変化してきています。個人の多様な価値観で、観光自体も変わってきている。嗜好が多岐にわたっています。
そんな中で、自分の生活圏でない所を見たい、非日常・異日常を求めています。
「うちはこれがあるんです！」と言えば、来てくれる→来てくれた人を満足させる＝口コミ、旅はおせっかいが好まれます。よく見せようとするとよくない、ありのままをきちんとお伝えすることが大事。小さなこと、我々にとって日常の小さなことが観光になる。相手に何が響くかわからないので、ワークショップでは、いろいろなものをアウトプットしていって欲しいです。
ファシリテーターの紹介
グループＡ：古野克彦　グループＢ：神谷敏幸　グループＣ：石森克往
グループＤ：大野智子

Ａ～Ｄの４つのグループに分かれて、アウトプットしたい「安城のオススメ」について意見交換。

Ａ～Ｄのファシリテーターによる本日のＷＳの感想・まとめ
（各グループの議事録にて）

記録者　鶴田　香也乃

グループＡの議事録

構成メンバー：古野克彦（ファシリテーター）　小島（記録）
丹羽修・古居有三・浅井勝・名倉弘二・伊藤佳子・吉田央

古野：　皆さんそれぞれ、安城で自慢できるものを順に語ってください。

浅井：　私の末広地区では区画整理事業が進んでいますが、良い文化は残していきたい。安城には今でも１５～１６人の芸妓さんがいます。京都まで舞妓さんに会いに行かなくても安城には芸妓さんがいるわけです。また、末広地区には蝶の収集家で世界的に有名な人がいます。新しくできる公民館に蝶の標本等を展示したい。

吉田：　七夕まつりから派生する「願いごとのまち」は重要なキーワード。観光地としての可能性を秘めた安城七夕神社や、ゆるキャラのきーぼーの存在があります。他に商工会議所の関連としては、ペットボトルキャップのリサイクル技術を活用してキャップアートの取り組みを行っています。「製造業のまち」「環境首都」という点ではこれも地域資源といえるでしょう。

名倉：　市役所の西側に、安城ヶ原の面影が残る松林があります。何もない原っぱから、明治用水の開通とともに発展した安城にとってその風景は原点ともいえます。また、歴史博物館の東あたりに広がる田園風景にも安城らしさを感じます。

古野：　安城のブランド米はありますか？

名倉：　米で有名なものはないのでは。

古野：　イチジク、ナシのブランドは？

古居：　商品名ではなく、安城イチジク、安城ナシの名で通っています。

浅井：　イチジクの天ぷらとか、珍しいものもありましたね。

古居：　日本デンマークの農業、七夕まつりに象徴される商業、トヨタ系の工業の３つの産業が発展し、市町村合併もしていないのに人口が増え続けているのが特徴でしょう。いいまちですが、広く PR しようという機運がない。

古野：　皆さん裕福なのでは？

グループＡの議事録

古居：　切迫していないのでしょう。岡崎や西尾のように歴史的なバックボーンに乏しい安城だからこそ、しっかりと情報を発信していかないと。

伊藤：　私の所属する安城駅前元気会では、毎週木曜に有機野菜の産直市を開いています。また南吉のジャンボかるたなどを作ってまちを盛り上げています。

古野：　商店街のおかみさんのブランドが生まれるといいですね。足助の ZiZi 工房やバーバラハウスのような動きがあるとおもしろい。

古居：　食べ物ではほかに和泉そうめんがありますね。

吉田：　そうめんはシーズンが限定されていて、夏が終わってからどうするかがカギ。

古野：　逆に希少価値があっていいのでは。

名倉：　残念ながら和泉そうめんを食べられる店が減ってしまいました。

浅井：　商店街などで新しくうまいものをどんどん提供すれば人は来てくれる。

古野：　明治用水は重要なキーワードになり得ますか？

浅井：　安城を語るには水は欠かせない。昔は明治用水で泳いだものです。今の水や追田川を錦鯉が泳ぐ川にしたいですね。

古居：　用水沿いにサイクリングロードもあります。

Ａグループまとめ
七夕関係、明治用水、イチジク・ナシなどの農産物、田園風景、ものづくり。よそ者から見れば十分にネタがあるまちだと思います。まちの良さが伝わっていないとすれば、今までの売り方やＰＲの方法、お金の使い方などに問題があったのかもしれません。「ニュースな仕掛け」を心掛ければまちの魅力が生かされていくでしょう。
次回はこれを元にブラッシュアップしていきたい。

グループＢの議事録

構成メンバー：神谷敏幸（ファシリテーター）　深谷（記録）
沓名秀治・菅沼賢治・大見博昭・澤田喜久子・石原玉子

神谷：　堅苦しくなくざっくばらんに。否定はなしの方向で自己紹介からお願いします。

菅沼：　菅沼です。まちの米屋です。主に今はこの街の青年部の壱番会の代表です。
活動は、きーぼーを日本一にしようと、休みのたびにＰＲしています。

大見：　南吉の下宿先の家主です。僕は南吉についてはあんまり知識はないのですが、住まいは、南吉がいた頃のままにしてあります。南吉観光は遠くからの客が結構あると思います。

澤田：　新美南吉に親しむ会の代表です。親しむ会は３８年目になります。安城の特徴は教師南吉と教え子さん。それも教え子さんたちが健在の内から動いたことが大きいと思います。それが、皇后さまにまで届いたのではないでしょうか？個人的には観光南吉ではなく、南吉を知らない人がいるのがもったいないと思います。南吉のファンは全国にいます。また教科書に５０年掲載されている。つまり、３世代に渡っているということは本当にすごいことだと思います。

石原：　フットバランスの石原です。お店が南吉とあまり関わりがなくて残念です。
有機野菜を販売する安城駅前元気会として参加しました。

沓名：　ヘアーサロンくつなの沓名です。親子３人で床屋をやっています。
ご当地アイドルプロジェクト「安城商店街アイドル　看板娘。」の運営を行っています。市内外で商店街のＰＲを行っています。

神谷：　では、ブレインストーミング（アイディア出し）を始めましょう。

菅沼：　安城は「人の和」「連帯感」がある。「ホコ天きーぼー市」がその典型だと思います。

神谷：　「ホコ天きーぼー市」には何があるのですか？外から来ると、または友達になると、安城には何があるのですか？

澤田：　安城で有名なものはいちじくです。いちじくをまずは冷凍してから、少し解凍してお客様に出す大変喜ばれます。私はヨーグルトと一緒に食べます。

グループＢの議事録

沓名：　僕たちはあまり食べませんが、いちじくを買ったことがありません。
大抵は店のお客様が持ってきてくれるので足りてしまうからです。

沓名：　安城の商店街は総延長が長い商店街といえます。そのなかでもおすすめは鳥竜さんのコロッケです。お値段なんと２５円！！また、神杉酒造さんのお酒はもちろんですが、味醂や砂糖抜きでつくる甘酒などがお勧めです。

澤田：　私は、更生病院からデンパークに向かう赤松町の麦畑の風景が好きです。

沓名：　更生病院からは新幹線が全車両を一望できます。

澤田：　デンパークに行くのには、あんくるバスが利用できるのですが、あんくるバスのラッピングが変わってしまって残念です。昨年は新美南吉が前面に出た赤いバスでとてもよかったのに・・・。
（閑話休題）

神谷：　ゆるきゃらについて。
ふなっしーも下積みはありました。そこで「しゃべる」「動く」を逆手にとって人気をあげました。くまモンは著作権料を無料にして人気をあげました。
ひこにゃんも動けるキャラクターなのです。今年第１位のぐんまちゃんは実はすでに３０年活動を続けています。

菅沼：　きーぼーも昨年の２倍は活動していて認知度が上がってきています。

神谷：　ご当地アイドルで大切なのは曲と音源のクオリティーが一番です。あとは素材ですね。

澤田：　デンパークやアンデルセンをもっと活用できないでしょうか？

神谷：　お聴きする限りみんな点に感じられます。線になっていないですね。
南吉の好物は何だったのでしょうか？

澤田：　南吉の好物は日吉軒の羊羹です。日吉軒さんは既にありませんが。

神谷：　関連性をつけていかないといけません。
安城が盛り上がる＝僕らの生活が変わるという視点が必要です。

グループＢの議事録

大見：　南吉の下宿先は住宅街にあるので、音と駐車場問題がついてまわります。

神谷：　近隣の住民の方と相談して年２回くらいイベントができるといいですね。

大見：　我が家に蓄音機があります。今は活用していませんが「南吉の下宿で南吉の聞いたクラシック」を聴くイベントができたらいいかもしれないです。

澤田：　大見さんの下宿先で南吉の読み聞かせをさせていただいたところ好評でした。

神谷：　きーぼーを全国一へ。なんていかがですか？ご当地アイドルもそうですが、注目されないといけないです。魂をいれて活動することが大事です。

澤田：　南吉ウォールペイントのなかには７０ｍに及ぶ大作もあります。

神谷：　ウォールペイントを素通りさせない方法を考える必要があります。「注目される」ことからはじまり、「知ってもらう」ことが必要です。商店街の中に南吉を落とし込むことはできませんか？例えば、絵本になっている菓子をつくってみるとか。思い切って南吉館を駄菓子屋にするなんてアイディアはいかがでしょう？

菅沼：　いいアイディアだと思います。ウォールペイントもあるし、南吉の資料も揃っています。子どもたちが南吉に触れ合う拠点になるかもしれないですね。

Ｂグループ　まとめ
参加者：商店街と南吉にまつわるグループで構成されました。
テーマ：地元のジャストアイディア！！
内　容：・いちじくは冷凍したあと少し解凍して食べるのが美味しいです。
・鳥竜さんのコロッケは安くて、ヘルシーで差し入れにもピッタリです。
・南吉の好物だった羊羹を再現できないでしょうか？
・絵本菓子を創作し、南吉館を駄菓子屋にしてみてはどうでしょうか？
・ウォールペイントやアンデルセンを有効活用してみましょう。
・南吉の好きなクラシックと読み聞かせを南吉の下宿で蓄音機を利用していったらいいのでは。

グループＣの議事録

構成メンバー：石森克往（ファシリテーター）　榊原（記録）
野田全尾・築山智幸・鈴木利夫・鈴木雅喜・白谷隆子

石森：　では『安城のまち（商店街）の現状』についてフリートークをしましょう。

鈴木雅：　私は、生まれも育ちも名古屋市で地元の方との商店街の見方が違います。食料品の購入はマックスバリューでほぼ１００％名古屋でも商店街を利用しない。名古屋にもいろいろな商店街は有るが、集客のある商店街は少ない。
大須商店街は別格で有料駐車場しかないが、かなり集客能力がある。背景には大須観音などの集客スポットがあることも考えられるが、古い商店は後継者がいないなどの問題もある。

石森：　安城の商店街の後継者問題はいかがですか。

野田：　若手は３代目～４代目が多く、後継者がいないお店の店主の高齢化が目につく。高齢でお店を閉めた店主は自己物件の為、条件に合わなければ別段貸さなくてもよい方が多い現状である。商店街も空き店舗補助等を活用し努力はしているもののシャッターが閉まった状況を変えるまでには至っていない。

鈴木利：　大型スーパー、ユニクロなどとの差別化ができている暖かさを持ったお店が残っている。食料品店など最盛期（50 件）から 10%（3 ～ 5 件）も残っていない。

石森：　安城に訪れた方にどこを紹介しますか。

白谷：　市外から訪れる友人が多く安城しかない風景（厚生病院周辺の田園風景）をまず見て頂きます。駅からデンパークへ向かう道が北海道のよう（少し大げさですが）である事、大豆・大麦が栽培されている事、七夕まつりの紹介をします。お店の紹介は、竹ノ内かご屋さんを珍しいので紹介します。他には南吉壁画の紹介まちなか惣菜店の紹介（集中して３店舗）をします。

鈴木雅：　惣菜店が集中して３店舗あるまちも珍しい。

野田：　食の安心・安全といった面で３大惣菜店が信頼されている。

白谷：　会議等で文化センターをよく利用することがある。その際、歩いて廻れる範囲の

グループＣの議事録

お店を紹介、グラム単位で購入できる『千賀豆店』、食事では石の足湯のある『とんかつの三好弥（現在は閉店)』を紹介する。

石森：　私の住む町菊川は、お茶の街で新茶の時期にはグリーンベルトの様になる。

白谷：　榎前にはひまわり畑がある。

野田：　梨ばたけの風景も見られる。あと、かえるの歌が聞こえてくるよ・・・

石森：　菊川に引っ越した時に、かえるの声に感動した。横浜に住んでいた時も聞こえていたが、開発後７年後に聞こえなくなった。

鈴木雅：小さいときは、道にいると捕まえてかえって飼うこともあった。

白谷：　昔は、『ハギレ屋』『駄菓子屋』が多くあった。

鈴木雅：たこ焼き、団子屋など子どもたちが喜ぶ店が今はない。

石森：　職人のまち？

築山：　鉄の職人（薪ストーブを発注制作）建具屋、畳屋などがある。

石森：　畳など消費が減少するなどの業種も多々ある。

白谷：　『一丈そうめん（和泉そうめん)』の食べるところがない。

鈴木利：以前はあったが採算が合わない。いろいろ言うが実際には利用しない方が多い。

石森：　一店、一店が集まれば来街者が増えるのでは。

鈴木利：理想論である。

石森：　千葉県では商店街がデベッロッパーの物件にイオンを誘致したが、思った以上にテナントの各商店が、奮起しイオンが撤退した例もある。

グループＣの議事録

鈴木利：　その方法を勉強することが重要である。名古屋・トヨタのベットタウンということもあり、安城の商店街は他地域に比べ、まだ頑張れる状況にある。近隣地区では商業が行き詰っている店も少なくない。先ほどのＪＴＢさんのお話でもあった通り、１０年前と商業環境は変わっている。野田さん（正音堂）の様な地域の電気店は大変に思える。

野田：　他店との差別化ができているから問題はない。

鈴木利：　自信を持って経営している店は強いですね。付加価値を付けて売るなど工夫して。

石森：　付加価値をどのようにつけて行くのかが重要です。

野田：　観光などで人を呼ぶことも考えられるけど、安城の『ゆっくりした空気』が良い安心・安全なまち・住みやすいまちをＰＲしていっては。現在も右肩上がりの居住者増となっているので。

石森：　地元の方は、道が狭いなど不満はあるがそれもロケーション的には良い。

白谷：　安城七夕まつりの由来は知っていますか？

野田：　２・８月が端境期といった理由であると聞き伝えています。

白谷：　安城にはこれといったものがない。

鈴木雅：　スタバに喜んだりと、ブランドショップは根強い。

野田：　基本的に歩いている人は少なく、自動車移動が主である。

鈴木利：　以前に佐賀県のスタバを利用したが高かった。

野田：　安城にも若干郊外に『パンのトラ』という繁盛店がある。パン屋では珍しく客単価が 2,000 円以上で当初予定していた１か月を超え未だに交通整理員を配置している。ＳＮＳなどの口コミでオリジナル商品が作れるところは強い。

石森：　電気屋さんなどは老年者向けのサービスなどが・・・

グループＣの議事録

白谷：　かなり前から、石川仏壇店さんがネット一本に絞って成功している。他では、フラダンス・ベリーダンス・フラメンコなどの趣味が高まっている。

野田：　年配者でもでき、衣装の色がビビット系の物が多く気分が高揚するのでは。

石森：　皆が同じ衣装でも面白くないでしょうね。

鈴木利：　南吉にはつながるのか？

石森：　今回は意見収集です。

鈴木：　子供たちが見て学べるような南吉等のモニュメントが欲しいですね。

Ｃグループのまとめ
本日は「安城のいいところ」を中心にお話をいただきました。
このグループでは、ほぼ全員商店街の方ということもあり、熱い想いが伝わってきました。他のまちにはないお店や風景、現在でも地元の目線で消費者を呼び込むなど、今後の課題としては、各店・各点のとらえ方ではなく様々なものをコラボして点から線・面へと展開し広げつなげてゆくことが、重要な課題であると感じました。

グループDの議事録

構成メンバー：大野智子（ファシリテーター） 佐野（記録）
近藤芳弘・沓名好子・野村直人・長谷部裕之・鈴木ゆかり

大野： では『安城自慢』をお願いします。

沓名： 住みやすく災害に強い街です。雨が少ないです。

大野： 生活に触れられるような話しが出るといいです。

鈴木： イチジクが有名です。ただしスーパーのものはまずい。

近藤： 有人、無人販売所があります。

長谷部： あまりありきたりなことは言いたくないです。

沓名： かしこまってしまってすぐには出てこないですが・・そうめんも有名です。

近藤： 実際住んでいるので安城の「異・日常」がよくわからないです。デンパークや歴史博物館があるくらいでしょうか。

長谷部： 篠目町にホタルを育てている所があり、６月頃見られると思います。それと農家に行くとお米や野菜をお土産にくれたりします。安城は井戸のあるところが結構あります。

野村： 古井町や桜井町に残っています。

長谷部： 古井町の名前の由来となった古い井戸が古井町にはあります。

近藤： 桜は結構あちこちで咲き、ほとんどの公園に桜の木があります。

大野： 桜ですか？いいですね。

鈴木： 特に安城公園はきれいです。鹿もいます。

沓名： 池もあります。

グループＤの議事録

近藤：　「文学の道」という石碑も立っていたと思います。

沓名：　ひまわり畑があります。しかも持ち帰りが自由です。

長谷部：コスモス畑もあります。

沓名：　こちらも持ち帰りが自由だったと思います。

近藤：　ラベンダー畑もあったのではないでしょうか。

鈴木：　ひまわり畑にきーぼーも顔を出しました。
（きーぼーの名前の由来やゆるきゃらグランプリに参加した話しをする。）

大野：　今日デンパークの道の駅に寄りました。野菜が大好きなのですが黄色い人参を見たのは初めてで驚きました。販売している野菜が生産者の顔がわかってとてもいいです。

近藤：　安城といえば安城牛がいて、その安城牛を使ったごちカレーというレトルト商品があります。

沓名：　ＪＲ安城を「桃太郎」という電車が通過します。
手を振ると警笛を鳴らしてくれますし、その電車見たさに来る人もいます。

長谷部：更生病院の前に新幹線の車両がすべて見ることのできるスポットがあり、そちらも割と有名で人気があります。

近藤：　安城は坂が少ないです。

大野：　ではジョギングする人にはいいですね。

野村：　長いサイクリングロードもあり走っている人もいますが、あそこは上り下りが何か所もあるので向かないです。

近藤：　安城は台風の影響をあまり受けず警報も出にくいです。

グループＤの議事録

沓名：　田んぼアートをやっています。

長谷部　藤井町やデンパーク付近です。

鈴木：　更生病院へ行く途中に卵の自動販売機が置いてあります。

大野：　卵の自動販売機なんてあるのですか？どのように買えるのですか？

沓名：　ロッカータイプの自動販売機になっています。

（大野氏が過去経験した薬局での話しをし、野村氏と接客について話しをする。）

大野　お店に来た方と積極的に会話をした方がいいです。

長谷部：　根崎町で年に１回どろんこ祭りが開催されています。Ｔシャツ・短パンで駆けっこしたり。大人も子供も楽しんでます。

大野：　田植えや稲刈りなどの農家体験がしてみたい。

野村：　今は子供が泥だらけになって遊ぶなんてことがない。
どろんこ祭りにしても田植えや稲刈りにしても、先ずは大人が楽しんでやれば子供も楽しんで行えるのではないでしょうか。

大野：　そうですね。とにかく外から来た人を笑顔で迎え入れて欲しいです。

Ｄグループ　まとめ
今日は「今の安城の自慢は何か」というテーマで話していただきました。
イチジクがおいしく、農家の方からタダでお米や野菜がもらえたり、ひまわりやコスモスもタダで持ち帰れるといったいい話しが出ました。それを聞いて私は農家体験がしたいと思いました。もし叶うなら古井町にある井戸で冷やしたスイカを縁側に座って食べたいです。安城には何もないかもしれないけど人がいます。人こそその町の財産です。

Ⅱ. 南吉でつながるひろがるまちづくりワークショップ第２回議事録

日時：2014 年 11 月 21 日（金） 19:00 ～ 22:00　場所：クリエーションプラザ２階

出席者：全体ファシリテーター：木村ともえ・アシスタント：熊岡猛・西川鉄也
グループ A：古野克彦（ファシリテーター）小島（記録）
野田ゆき・丹羽修・名倉弘二・吉田央
グループ B：神谷敏幸（ファシリテーター）・深谷（記録）
沓名秀治・菅沼賢治・大見博昭・澤田喜久子・石原玉子
グループ C：石森克往（ファシリテーター）・榊原（記録）
野田全尾・鈴木雅喜・白谷隆子
グループ D：木村ともえ（ファシリテーター）佐野（記録）
沓名好子・野村直人・丸山公房
オブザーバー：南明治整備課　１名
他：安城市企画政策課：神谷澄男・仲道雄介・沓名広紀・蜂須賀知子
（株）安城スタイル：鶴田香也乃

式次第

１．　開会のことば　　㈱安城スタイル代表取締役社長　　鶴田香也乃
２．　ＷＳステップについて
㈱安城スタイル代表取締役社長　　鶴田香也乃
３．　あいさつ　　安城市企画政策課長　　神谷澄男
４．　ワークショップに入る前に　　ワークショップファシリテーター
㈱ＪＴＢ中部地域交流推進課長　　木村ともえ氏
５．　次回ワークショップの確認　　日時：１２月１１日（木）１９：００～
場所：安城商工会議所３階　第１第２研修室
６．　閉会のことば
㈱安城スタイル代表取締役社長　　鶴田香也乃

２.ＷＳステップについて　　㈱安城スタイル代表取締役社長　　鶴田香也乃

今回の３回のＷＳについて確認をしたいと思います。
第１回のＷＳでは自由に、安城自慢について活発なアイデアを出していただきました。三回目を終了して、ガイドラインの作成という目的はありますが、ガイドライン、という漠然としたものではなく、たとえば今日机の上にあるような、“るるぶ安城”を作る、だとか、街中を歩いて、南吉を訪ねる３時間コース、だとか、なにか具体的なプランを思い描いてほしいと思います。市の方から、その作成などに対する資金援助があるかどうかは別にして、

Ⅱ. 南吉でつながるひろがるまちづくりワークショップ第２回議事録

日時：2014 年 11 月 21 日（金） 19:00 ～ 22:00　場所：クリエーションプラザ２階

今後そのような予算を組んでいただけるようなものを描いてほしいです。話し合って、意見を出して終わってしまった、ではないようにしたいです。そういうことを踏まえて、今日は、１回目に出たアイデアを基に、“南吉”という要素と組み合わせて考えてみてください。

３．　あいさつ　　安城市企画政策課長　神谷澄男
　　自己紹介

４．　ワークショップに入る前に　　ワークショップファシリテーター
　　㈱ＪＴＢ中部地域交流推進課長　木村ともえ氏

① 街観光
② 街おこし（豊川）古野克彦
③大野氏ビデオレター

① 街観光　特別なことはいらないのです。１回目で安城自慢を出してもらいました。２回目、３回目ではそれをブラッシュアップさせ、組み合わせてストーリー作りをしていきたいです。

そのためには、ありきたりのものではダメ、とがったものが欲しい。一宮観光プロジェクトをみても、路地裏を歩くツアーが売れる時代であったり、何が当たるかわからない、特別感をつけると良いなどのことが考えられます。

数多くの情報を羅列するのではなく、限られた情報でもいいので、組み合わせたり、掛け合わせたりできるものが好まれるようです。ですので、安城の場合もけっして背伸びをしなくてもいい、南吉になにか＋αをして欲しいです。

② 街おこし（豊川）　にぎわい起こし市民運動の事例説明（古野克彦）

Ｈ２１年から立ち上げて、いなり寿司で豊川をもりあげ隊、要するにいなり寿司を売るのではなく、豊川を売り込むのです。そのために、地元の特産品で勝負！市民運動起しで活力を！Ｂ-１グランプリでメジャーに！という柱のもと、豊川のいなり寿司を歴史的に紐解いたりして､Ｂ－１グランプリ初挑戦でいきなり６位を獲得。マスコミにも取り上げられるようになり、第８回Ｂ-１グランプリを豊川で開催しました。

また、愛知戦国甲冑隊でにぎわい起しを図っています。楽しむコトづくり、みんなでヒトづくり、今あるものみがき、ニュースな仕掛け、そしてメディアにのる事が必要です。今あるものを大事にしたいです。

全体の議事録

参加者の南吉に親しむ会の澤田喜久子さんから、どんな方が南吉を慕って安城にいらしているのかお話しいただきました。先日も春日井から何人か、横浜、東京江戸川からも来安しています。後日、谷先生が南吉の安城編の執筆のために再度来安し、下宿先に行く予定です。

A～Dの４つのグループに分かれて、アウトプットしたい「安城のオススメ」について意見交換。

A～Dのファシリテーターによる本日のＷＳの感想・まとめ
（各グループの議事録にて）

記録者　鶴田　香也乃

グループＡの議事録

構成メンバー：古野克彦（ファシリテーター）・小島（記録）
野田ゆき・丹羽修・名倉弘二・吉田央

古野：　今日は今まで挙がった意見のものを包含して２、３のテーマに絞りたいと思います。

野田：　今回が初参加ですが、前回の意見からは安城ヶ原、七夕神社で奉納といったあたりが魅力かなと思います。七夕神社はきーぼーともつながり、巫女さんを訓練すれば観光客に喜んでもらうこともできる。

古野：　七夕神社のご神体は？

野田：　椿大社から鎮座されました。

古野：　七夕まつりと南吉をつなげられると面白い。

吉田：　七夕まつりは 120 万人が訪れる祭りですから活用したい。

古野：　七夕神社の認知度は？

吉田：　現状は、地元の人にも知られていない。巫女さんもいません。

古野：　そこに、芸妓さんとか、かるたを絡められると良いと思います。あと、明治用水、田園風景は南吉とつなげられそうですか？

名倉：　南吉の時代から農業は盛んでしたので、南吉が見た田園風景、南吉が食べた米という切り口はありかと思います。

古野：　田んぼアートはどうですか？昔ながらの案山子を取り付けるとか。風景づくりに着手して有名になれば人が来る。青森では、一人のおばあちゃんが始めた案山子がどんどん広がって、今では観光名所になっている。

名倉：　何年か前に田園風景などに着目した「風景フォーラム」を行ったことがある。

古野：　その復活は？

グループＡの議事録

名倉：　わかりません。田園も少なくなってきている。

古野：　田園が少なくなっても、南吉が住んでいた頃のエキス、小道具とかを入れていけばいい。田園風景、明治用水、都築弥厚は僕らの世代ではなじみが深い。「日本デンマーク」は文化レベルが高い象徴。アンデルセンと南吉は童話の世界でつながります。デンマークには安城の姉妹都市もあるので、デンマークらしさを取り入れていけばいいと思う。デンマークは今でも農業先進国。山が少ない地形も安城と似ている。風車は先進的で環境都市のイメージ。ただ、南吉だけでまちづくりをやると、僕らの世代はピンとこない。南吉は半田の人だろうと言う。南吉には心が動かない人が多いんです。安城の心は明治用水と日本デンマークですよ。

古野：　そういった資源に、昭和 15 年ぐらいのイメージを絡めていけばいいと思う。その時代の安城のイメージを設定するんですよ。米、イチジクのブランド化はどうですか？南吉の時代にイチジクはありましたか？

吉田：　昔は養鶏が先進的だったそうです。卵がよく取れた。

名倉：　多角経営、先進的な農業は安城の財産です。

丹羽：　イチジクワインならあります。

野田：　ナシジャムとかも。

古野：　そういったものをメジャーにいけないものか。

名倉：　吉野屋ではイチジク懐石をメニューにするなど頑張っている。

古野：　一宮ではイチジクのグラッセを作っている。こうやって小ネタを作る。

野田：　イチジクは身体にもいいですね。

名倉：　安城には農業高校もあります。そこと絡めると良いです。

古野：　安城農林に手伝ってもらえるといいですね。イチジクジャムはないのか？

グループＡの議事録

吉田：　ＪＡで販売しています。ただ、市外て作っているという話です。

古野：　イチジクワインは、南吉ワインで売り出せる。

野田：　今年､安城市が南吉グルメコンクールをやりました｡そこからもヒントがあるかも。

古野：　それは面白い。

名倉：　童話コンクールもやっていくといい。

古野：　あと、私は南吉壁画のある市営駐車場の横の平面駐車場が気になりました。駅前なので、あそこはイベント会場にふさわしい。

名倉：　南吉生誕祭はあの駐車場の近くで開催しました。

古野　ありがとうございます。なんとなく３つぐらいのキーワードは出たかなと思います。

A グループ　まとめ

(1) 七夕神社と南吉奉納
(2) 南吉の住んでいた頃の時代風景
(3) 高校生たちの見た南吉の風景

そんな感じのキーワードが生まれました。次回はさらにこれをブランディングにつなげるように膨らませていきたい。

グループＢの議事録

構成メンバー：神谷敏幸（ファシリテーター）・深谷（記録）
沓名秀治・菅沼賢治・大見博昭・澤田喜久子・石原玉子

神谷：　前回のワークショップで皆さんから頂いたコンテンツの中に新美南吉というコンテンツは正直少なかったと思いますが、その中でも「好きなお菓子は羊羹」「南吉ウォールペイント」「絵本菓子」「好きな音楽はクラシック」というコンテンツが挙がりました。グルメ企画・イベント企画・新商品の開発などには「レアであること」が大切になります。新美南吉を使うことができるのは「半田と安城」しかありません。まさに「レア」なコンテンツです。これと皆さんからあげていただいたコンテンツを繋げていくことを考えてみましょう。

澤田：　B-1 グランプリが食のイベントだったのですが、それに関連して安城でと考えると南吉館を使って毎週土曜日に作品の朗読会を続けています。朗読は半田ではやっておらず、安城固有のイベントです。

神谷：　イベントは小さくやると回数を続けないと認知されません。そのためネタに困ったり、持続力が必要になったりします。これを回避するにはある程度大きなイベントを開く必要があります。例えば南吉が好きだったクラシックの音楽会と朗読会をジョイントさせてみたらいかがでしょう？そうすれば市民参加の窓口が広がって南吉に親しむ人が増えるのでは？
沓名さん、アイドルと新美南吉を繋げるアイディアはありませんか？

沓名：　「南吉体操」にアイドル風な振り付けを加えて行っている。
（南吉体操の詳細を説明）

神谷：　切り口がいいと思います。南吉の歌も歌ってみたらどうですか？

沓名：　それは大丈夫。できると思います。

神谷：　「レア感」を大切に考えていただきたい。昔流行ったビックリマンチョコを始め、レアカードやレアアイテムは仕掛ける際に重要なファクターとなります。「南吉＋ご当地アイドル」とか「南吉＋きーぼー」が「レア感」を生みます。
菅沼さんはきーぼーと南吉を繋げるアイディアはありませんか？

菅沼：　かなり難しい・・・。南吉に対する温度差があると思うから自分の中では難しい。

グループＢの議事録

澤田：　やはり新美南吉は童話作家であること、文学であることが大事だと思う。

神谷：　「南吉は文学だから」とおっしゃった「文学」なら南吉の見た風景。いた場所などを回遊することをしないといけない。南吉のいた時代を感じられるものをかなり具体的にしないといけないし、その当時を（例えば飲んでいたものなど）再現する必要もある。そこまでしないと興味の薄い人を引き付けるコンテンツにはなりにくい。だから違った見方で南吉と繋がるものを考えていきたいのです。

石原：　南吉の通っていた道や街並みはなくなってしまっています。それでも市はウォールペイントなどを行って、舞台作りをしてくれている。でも、私たち市民レベルでの南吉の理解が足りないと思う。

澤田：　作品の舞台は半田がほとんどです。ただ安城には教師南吉「南吉先生」がある。

神谷：　新しく何かを作って。というのは難しいところが多々あります。では南吉が残していったものは何があるだろうと考えると下宿がある。教え子がいる。下宿を使って、負担のないようなイベントを組むことはできないか？

菅沼：　やっぱり､南吉のことを勉強しないとだめだと思う｡無理に南吉と繋げてしまうと、関心の薄い人は尻込みしてしまいがちだと思う。

神谷：　澤田さんにお聞きしますが、南吉の特徴は？

澤田：　教員だった。今では 80 歳前後の生徒さんが存命している。学校がある。
そこには今では想像できないほど、先生と生徒の心の繋がりがあった。

神谷：　教え子さんが存命の内に次世代につなげていくことをしないと、若い人の中では関心の薄い人も現れてしまう。

澤田：　そこはとても難しい。高尚になってしまう。

神谷：　だからこそ、文学ではなく違った見方が必要なのです。絵本から「かるた」が生まれたように、何か違うものを生み出さないといけない。そして次はそれをどう使うのかが大事になります。多くの人が共に参加できる南吉の歌とか踊り、体操などを作ってみるとか？南吉の好きなクラシックと朗読などの合同企画を市民参

グループＢの議事録

加でやってみるとかが大切になると思います。イベントだけではなく、一方で普段の安城に訪れた人に南吉のことを語ることも非常に大切なこと、それは実際の教え子なのではないでしょうか？しかし、すでに高齢であるので次世代が受け継いでいくことも考えこともとても大事です。例えばですが、南吉が安城のまちなかにいてもいいんじゃないでしょうか？

澤田：　誕生祭のときには市の職員さんが南吉になってくれた。

神谷：　南吉のいた頃のものは現存するのですか？

澤田：　下宿先・小学校などがある。

神谷：　菅沼さんや沓名さんのような方と澤田さんとのギャップはとてもいいことです。見方が違うからいいのです。最終的に向かうベクトルが一致することが大事。

澤田：　商店街でいえば広瀬酒店。志満屋。簗本屋。博文堂。横田歯科。などです。

神谷：　そういった現存するお店の前に南吉の語り部がいる。という企画はどうでしょう？

沓名：　南吉が通ったという縛りを外したら今でも現存するお店は多いと思う。

神谷：　そういうことがレア感につながるのです。南吉ときーぼーのコンビということはできますか？

深谷：　南吉の下宿先にきーぼーがいた。だから南吉は夢がかなったという立てつけでいけると思う。

菅沼：　きーぼーのアテンドは南吉先生にすべきだったかな（笑）

神谷：　きーぼーにインタビューすると急に南吉の作品をしゃべりだす。とかのアイディアに看板娘。をジョイントさせて、常に一緒に活動するとかが必要です。

石原：　食も大事なのでは？

神谷：　そうですね。例えば地元野菜を南吉の下宿先で売るとかいかがでしょう？

グループＢの議事録

石原：　有機野菜は私たちがすでに売っていますが・・・。

神谷：　語り部が話をしてくれている中で、南吉商品を紹介してくれるとか常に南吉につながることを考えましょう。特に女性・子どもたちをターゲットにしたものを考えてみましょう。

石原：　南吉は珈琲が好きでした。

神谷：　南吉ラテアートとかどうでしょうか？

澤田：　南吉グルメコンテストを最近やりました。最優秀はそうめんを揚げてオムライスの中にいれた「ごんぎつねオムライス」でした。

（市役所沓名氏に入ってもらい、グルメコンテストの詳細を話してもらう。）

神谷：　南吉を使ったレストランコンテスト・お土産コンテスト・お菓子コンテストなども考えられる。丁寧なＰＲが大切ですが。一宮には自慢があるもの培われたものがあるが故、簡単に企画が出せる。一方、安城で考えると、「文学　南吉」だけではすぐに完結してしまう。安城を南吉でつなげていくストーリーが必要なのです。例えばですが、「安城の過去・現在・未来をつなげた市民参加のイベント」なんていかがでしょう？

神谷：　石原さんの産直朝市はどんな形ですか？

石原：　（産直の説明をした後、）少しずつですがお客様が増えて来た気がする。
澤田さんは南吉にあったことがないはずだが、すっかり南吉に惚れ込んでいると思うのはやはり、作品を読んだからでしょうか？

澤田：　作品から感じられる人柄に惚れた。勉強すると益々南吉にはまっていく。これは、私だけではなくグループの人にも多くいる。

神谷：　南吉のプラス面はその実績。反面、そこから離れられないジレンマがある。
前回出たコンテンツを南吉につなげるというのを難しいけれどつなげてみたい。

深谷：　ホコ天を利用して、下宿から商店街へ。そこで、安城の有機野菜販売やきーぼー

グループＢの議事録

や看板娘。のステージやかるた大会を体験し、学校まで向かう南吉ツアーとかはいかがでしょう？

澤田：　南吉の憧れたアンデルセンの世界を模したデンパークまでの道もとても良い。

神谷：　今日は難しいです。

Ｂグループまとめ
今日は大変難しい回でした。南吉を理解している人、理解していない人とのギャップを痛感した回でした。それでも南吉の体験したまちを巡るツアーをしたり、今あるホコ天などのイベントと相乗効果を狙ったりするとよいという意見が出ました。外部発信のコンテンツとして食・文学・芸能をミックスしたイベントを創る。また、語り部たる方々の高齢化も問題であり、次世代の育成も視野に入れないといけない。若い人たちの理解を進めるうえで、グルメ・お土産などの商品開発や、南吉が好きだったというクラシックを基にした音楽イベントなどを検討したらどうかなどの意見が出ています。

グループＣの議事録

構成メンバー：構成メンバー：石森克往（ファシリテーター）・榊原（記録）
野田全尾・鈴木雅喜・白谷隆子

石森：　では『安城のまち（商店街）の現状』についてフリートークをしましょう。

野田：　南吉について各個店が強くＰＲできるかがキーポイントとなるのではないか。豊川いなりの様な､元々強くＰＲできるものがあるところは良いが､南吉と聞かれて､逆に困るケースの方が心配になるのではないか。各商店街の役員は知っているが､一般の個人店まで情報がいきわたってない状況にある。何ができるのかを聞いてみたい。

石森：　南吉を絡めないほうがやりやすいのですか？

野田：　南吉を絡めたまちづくりに関しての着地点が見えない。

石森：　皆がそろって何かをやっていることが重要であり、かつ自分たちが楽しめることを推進したほうが良いです。

鈴木：　「ホコ天きーぼー市」を毎月開催している。交流広場で「まちなか産直市」から場所を変えて発展しています。「きーぼー市」を発展させて、「南吉ホコ天市」などに名称変更する手段も考えられる。

野田：　現在ホコ天は午後２時には終わってしまう為、賑わいができていない様に考えられる。運営側は大変ではあるが､「夜店」などを開催してはいかがですか。また、農家の人たちにお願いをして｢新鮮野菜トラック市｣などを開催してみてはどうか。売り子は高校生にお願いするなどの工夫も必要では。英語と南吉を重ねてみてはいかがですか。

鈴木：　イングリッシュカフェをホコ天に出展してみても面白いのではないか。

野田：　英会話の先生など比較的午前中が空いているので協力を依頼してみては。

白谷：　『南吉を知らない』というキーワードを外すため、南吉に関する情報誌を作ってみてはいかがですか。南吉を知ることで協力店の増加が見込める。「おぢいさんのランプ」はとてもいい話で、例えば各協力店の店頭にランプを置いてもらうなど。

グループＣの議事録

他にも、ごんぎつねが運んだ「うなぎ・木の実」をイメージした料理・スイーツなどを開発することも話題性があるように思います。南吉の下宿先をまちなかに移転するなどシンボリックなものも必要であり、また各空き店舗には「物語がある」「秘密の何かがある」といった仕掛けがあっても面白いのではないか。商店主の協力としては、各題材（物語）などからアイデアを出してもらい、より南吉に親しみを持っていただき市内に南吉ファンが多くできてまちなかに集うことができればよいのではないか。アーケードの効果は大きいのでアーケードを作ってみてはいかがですか。

野田：　確かに全天候型の商店街はいいですよね。

白谷：　とにかく、南吉好きのお年寄りや子供たちを増やすことが重要ですね。

石森：　駅はまちの入口であり顔でもある。

白谷：　駅に「南吉からくり時計」を設置してみてはいかがでしょうか。

石森：　時報の代わりに童話を聞かせてみるのも面白いかもしれませんね。

野田：　特に閉めっ放しの空き店舗にはシャッターペイントをしてみるのもいかがでしょうか。美大・芸大の学生に描いてもらい若者の集客する効果も得られるのでは。

石森：　今のウォールペイントからは南吉感が感じられない。

白谷：　ホソイメガネに南吉のプロジェクションマッピングをしてみてはいかがですか。

グループDの議事録

構成メンバー：木村ともえ（ファシリテーター）佐野（記録）
沓名好子・野村直人・丸山公房

木村：　前回のワークショップで「桜」というキーワードが出ましたが、これはどういったことなのでしょうか？

沓名：　主に３月末ぐらいから始まる安城公園の桜まつりのことを指しています。

木村：　それは有名で外部から人が見に来るのですか？

丸山：　いえ、主に地元の人です。

木村：　その際イベントなどは行われるのですか？

沓名：　イベントというか提灯を点けたり屋台が出たりするくらいです。

木村：　夜桜はいいですね。人を外から呼び込むのに桜というのはいいコンテンツです。

沓名：　篠目の遊歩道の桜もとてもきれいです。

丸山：　半場川辺りの桜や田んぼアートもいいと思います。地域によって桜の風景が違うし、半場川付近は色々なストーリーがあります。

野村：　半場川はここ１～２年力を入れています。

木村：　南吉にまつわるものは何かありますか？

丸山：　残念ながらそこにはないです。

木村：　そうですか。外から人が来るには「桜」という取っ掛かりはとてもいいのですが。

丸山：　桜ですと岡崎が有名なので少々難しいのではないでしょうか。

野村：　安城公園の桜だと昼は施設に入所しているおじいさんおばあさんが来ているというイメージです。

グループDの議事録

丸山：　安城でいえば「都築弥厚・明治用水・農業・桜」。それらを繋げ、そこに南吉さんを加えていくという考え方もありなのではないでしょうか

木村：　はい、繋げて考えていくことが大切です。例えばとある通りを南吉ロードと命名し、語り部さんと桜を見ながら歩くとか。

丸山：　安城は「和」のイメージが強いです。芸妓さんだったりイチジク、桜、農業とどれをとっても昭和のイメージ。そこで「和」のイメージと繋げることができればいいと思います。一本裏の通りに入ればまだまだ昭和を感じる風景があり、そんな通りに芸妓さんが歩いていたりするととても「和」を感じると思います。芸妓さんのキーホルダーやストラップがあってもいいのではと思うほどです。

沓名：　安城の芸妓さんは古くからあって知られています。

野村：　桜は外から人が来て見るものではなく、町内の人が楽しむものという感覚があり、それで人を呼ぼうというのは少々違和感を感じます。

沓名：　安城だったら田んぼも多いので「かかし」というのもいいかと思います。

野村：　安城は戦国武将というより百姓一揆が思い浮かびます。甲冑隊ではなく「百姓JAPAN」といったところでしょうか。

全員：　それは面白いですね。

木村：　とても面白い発想だと思いますが、その百姓JAPANが一体どんな組織でどんなもてなしができるのかを考えていかなければなりません。

丸山：　デンパークの裏にも洒落た農協の建物がありますし、デンパークのデンには伝統の「伝」と田んぼの「田」という意味があるのだからそういうものも絡めていったらいいと思います。そこで観光客向けにパレードなんかをするのもいいのではないでしょうか。

沓名：　やはり収穫体験ができるといいと思います。そういう体験ができればプラスになると思います。

グループＤの議事録

丸山：　ただ刈るとなると量が限られてくるので植える体験の方がいいのかもしれません。
トラクターに乗る体験というのも面白いのではないでしょうか。
安城ならそれが出来ると思いますし、農業ＰＲにもなります。

木村：　お米だけではなく大豆・麦なんかも体験可能ですか？

沓名：　はい。

丸山：　農業となれば明治用水も絡めることが出来るし、そこから神杉さんのお酒も絡められるのでは？

木村：　安城ブランドは「農業」ですね。南吉の時代観と合うような気がします。

野村：　イチジクばかりが取り上げられるが梨もいいです。「梨の里小学校」というのがあるくらいですから。安城和牛も。

丸山：　安城和牛を扱っているところは今一軒しかないので難しいです。

野村：　卵なんかも難しいですか？

丸山：　安城で畜産は難しいです。やはり強いのは農業だと思います。
話は少し飛びますが和泉の素麺なら前面に出せると思いますが。

木村：　素麺なら南吉に繋げることが可能です。

丸山：　素麺ならどこの店でも出しやすいのでは。

木村：　田んぼアートは誰がやっていて、どんな人が見に来るのですか？

丸山：　地元の青年部やＪＡの方が一緒になってやっています。

野村：　あれも期間限定にはなってしまいます。

木村：　夏は観光でブラブラ歩く人がいないので田んぼアートはいいのかなと思いました。
安城の町を訪れた旅の方を案内出来るような方や語り部は現在いるのですか？

グループDの議事録

丸山：　特にはいません。

木村：　町を案内出来る人・語り部がいるかいないかで町は全然違ってきます。人の話で紡いでいくというのは重要なことです。安城は可能性を秘めています。例えば「井戸」→「水がきれい」→「明治用水」と話を繋げる事が出来る。そして「井戸」のエッセンスは南吉の話にも出てきます。

野村：　ただ旅に来た方が何を求めているのかというのが問題です。南吉の本を読んでそのイメージを持って安城に来られてもそのイメージのものは安城には何もないのです。

木村：　そうかもしれませんが何か自分に響くエッセンスが少しでもあればいいのです。

野村：　南吉の絵本の世界と安城は繋がらないのではないでしょうか。その世界観を求められても困ります。

木村：　確かにそうでしょうが、そういうアメージングな世界を作るには何か箱ものを作るしかなくなってしまいます。「南吉」は一つの素材です。ほんの少しのエッセンスで構わないのです。南吉の教え子がまだ生きている、そういう人がいる土地で農業体験ができる、そこに価値を見いだす人もいます。安城に「南吉」がいた、それだけでもいいんじゃないでしょうか。

野村：　無理やり作った感があるし、どうもいいイメージがないです。

木村：　地元と触れ合えるいいフィルターです。旅人が想像を膨らませるのです。南吉が過ごした、教え子が生きているという事実は決して嘘ではありません。事実を繋げていけばいいのです。全国の教科書にも載っている、このことは大変な強みです。

丸山：　語り部さんにしてもそうですが何をするにもお金がかかってしまいます。あまり南吉を真ん中に置きすぎると良くないですが、色々なものと上手く繋ぎ合わせることができれば面白いと思います。

木村：　確かに南吉をあまり中心に据えすぎると無理やり感が出るので、語り部さんを使うなど事実だけを生かした方がいいと思います。

グループDの議事録

野村：　語り部さんといっても南吉の教え子は結構なお年だと思うのでかわいそうです。難しいのではないでしょうか。

木村：　ですから伝承講習や語り部育成が必要だと考えます。

沓名：　語り部さんの話を録画し、映像を流して見せるという方法もあります。南吉に興味のある人は何をしゃべってもらっても面白いと感じると思います。

野村：　確かに南吉が先生をしていたというのは大きいとは思います。

木村：　おそらく話を聞いた方は南吉さんに触れたような気持ちになると思います。

沓名：　語り部として必要とされるのも嬉しいのではないでしょうか。

木村：　お茶飲み友達感覚で話しをしてもらえばいいです。感じたのが意外と地元の人が地元を知らないということ。なので育成会が必要かと思いました。

野村：　童話を語る・読むというのはどうでしょうか？先日足助に行ったら町の人から「説明しましょうか」と声を掛けられました。

木村：　はい、足助は町ぐるみで積極的に町の話をしてくれます。あそこはとてもそういったことに力を入れています。

野村：　語り部だけではなく、そういう形でもいいのではないでしょうか。

丸山：　安城でも語り部さんがいるにはいます。南吉館で土曜日辺りやっているのではなかったでしょうか。

沓名：　読み聞かせもやっています。あと、南吉のジャンボかるたなんかもやっています。ボランティアであちこちに出張し行いますが、子供から大人までとても喜んでいただけます。かるたの広め方を考えた結果ジャンボかるたになりました。

木村：　安城にはいい素材がたくさんありますが、外部の方にこれらを伝えるためのパンフレットのようなものはないのですか？

グループDの議事録

丸山：　まとまったものはないと思います。

野村：　しかし南吉かるたとした場合、教育・・という感じにはならないでしょうか。

木村：　コミュニケーションツールとしてはとてもいいものだと思いますが。

沓名：　教育ではなく、かるたを通して南吉を知ってもらいたいということです。

木村：　ただこれらをどうやって繋げていくのかが難しいです。素材は本当にいいのですが。南吉の時代でくくったもので考えましょう。これらの素材を組み合わせてモデルコースは作れそうですか？

丸山：　広い範囲で考えるのではなく、狭い範囲内で凝縮させて考えた方がいいです。ところでこのワークショップの真の目的は何なのでしょうか？町おこしなのかグルメなのか体験なのか・・・・

木村：　市の予算が下りないので仕方ないですが最終的には冊子というかパンフレットのようなものが作れればと思っていたのですが。語り部さんと安城・南吉を勉強するコースとか百姓 JAPAN で農業体験する、南吉素麺を作ってしまってもいいです。たくさんあるのですがどうも点になってしまうので、やはり繋げておすすめコースを作った方がいいです。

沓名：　せっかく南吉の童話の世界を描いた壁画があるのだからそういうのをブラっと見てもらうのもいいと思います。

野村：　南吉童話コースというのもいいですね。

丸山：　本当は壁画にストーリーがあり、順番に巡れるようになっていれば良かったですね。一貫性のない絵が少々問題です。

木村：　童話コースにジャンボかるたをプラスさせるというのもいいのでは。コースはたくさん出来そうですね。

沓名：　スタンプラリーなんかもいいかもしれません。ジャンボかるたは、「この絵はこういうお話しなんだよ」と説明しながら行ったりしています。

グループＤの議事録

野村：　もしパンフレットを作るなら壁画の説明など加えてもいいでしょう。

Ｄグループまとめ
本日、Ｄグループは素材の洗い出しから始めました。その中で南吉を無理やり絡めないという率直な意見も出ました。資源は語り部ですが、その語り部さんがご高齢だという問題点も。語り部の話を録画しそれを見てもらうという意見もあり、それもいい案だと思いましたが、やはり語り部の育成の必要性を感じました。また、南吉の生きた時代というくくりで農業体験もいいのではないか、ＪＡと組んで「百姓 JAPAN」などという話も出ました。農業体験、明治用水などを絡めたおもてなしです。ただなかなかおすすめコースとはなりません。童話を読んでもらったりする童話コースという案も出ました。その後素麺を食べてもらいます。その素麺は「南吉素麺」としてブランド化してしまうのもありかと思いました。など、Ｄグループは素材を生かしたコースなどを考えてみました。

Ⅱ. 南吉でつながるひろがるまちづくりワークショップ第３回議事録

日時：2014 年 12 月 11 日（木） 19:00 ～ 21:30　安城商工会議所　第１研修室

出席者：全体ファシリテーター：木村ともえ・アシスタント：熊岡猛・西川鉄也
グループ A: 古野克彦（ファシリテーター）小島（記録）
丹羽修・名倉弘二・古居有三
グループ B: 神谷敏幸（ファシリテーター）・深谷（記録）
菅沼賢治・大見夫人・澤田喜久子・石原玉子
グループ C: 石森克往（ファシリテーター）・榊原（記録）
野田全尾・鈴木利夫・鈴木雅喜・白谷隆子・大山湖龍
グループ D: 大野智子・木村ともえ（ファシリテーター）筒木（記録）
沓名好子・野村直人・長谷部裕之・鈴木ゆかり・伊藤英明
オブザーバー：商工課　１名・南明治整備課　１名
他：安城市企画政策課：神谷澄男・仲道雄介・沓名広紀・蜂須賀知子
（株）安城スタイル：鶴田香也乃

式次第

１．	開会のことば	㈱安城スタイル代表取締役社長	鶴田香也乃
２．	ＷＳの進め方	ワークショップファシリテーター ㈱ＪＴＢ中部地域交流推進課長	木村ともえ氏
３．	各グループ　発表		
４．	閉会のことば	㈱安城スタイル代表取締役社長	鶴田香也乃

２.ＷＳの進め方
○発表の手法
・各チームの市民代表が発表する
・発表者は、一人もしくは二人とする
・市民活動企画案は、複数あっても良いが、発表は１案とする
ただし、チームによっては、複数案の提案もＯＫ
○時間割
19：00　主催者挨拶のあと、発表アイデアのまとめワークショップ
20：15　発表開始　１チーム　１０分
21：00　意見交換

全体の議事録

21：20　　まとめ　（安城スタイル　小島）
21：30　　終了

3．各グループの発表

Dグループ　沓名好子・野村直人
Aグループ　古居有三
Cグループ　白谷隆子
Bグループ　菅沼賢治・澤田喜久子・大見夫人・石原玉子

4．発表後

木村ともえ氏
「観光」と言ってもモノがあるから人がくるのではないです。受け手のきちんとした体制、アイデアを膨らますことが大事です。たとえば、Bチームの「南吉の日記」があるということは、地元でしか知らない事で、他では見えない要素です。Dチームの「語り部」ですが、今オプショナルツアーでは、何かのクーポン券ではなくこちらの方が人気です。人とのふれあいを大切にする傾向にあります。Cチームの検定、「やろまい」は楽しくなくては続かないです。一緒に磨き上げるということでしょうか。受け手がないと発展していかないです。

安城市企画政策課 沓名広紀氏
実際に東京から来る人がいる、この人たちをどう受け入れていくか。自分は南吉のことを知らなくても、南吉で安城を訪れる人たちをもてなすべきではないだろうか。そして、南吉が昭和１７年１０月１０日に「おじいさんのランプ」を下宿先で書いて、子供のころからの童話作家になりたいという夢をかなえたのは事実である。このことを、マニアックに進めていっていいのではないだろうか。

各ファシリテーターから感想

A グループ：古野克彦氏
街づくり、街おこしは、今あるものをどう磨くか。ポジティブに取りむといい。宝石の原石があるかもしれない。

B グループ：神谷敏幸
南吉を知らない人が多い。好きになって、興味がわいてくるもの。心を大切にしたい。「南吉」をやることに対して、楽しんでいきたい。

全体の議事録

C グループ：石森克往
南吉とは・・・？　ロイヤルプランとして、「南吉サミット」もいいではないか。

D グループ： 大野智子
最初、安城の人は南吉のことが好きではないのかと思った。心をしっかりと育んで、日本一の語り部を作ってほしい。生き生きと生ける安城市であれ。また、実現させないと意味がない。私の夢は、夏、南吉の下宿先の縁側で、スイカをほおばること。

安城スタイル　小島
第１回のＷＳでは、皆さん活発に意見が出て、改めて安城の良さを確認しました。また、第２回は、「南吉」というテーマで絞ったためか、少し難しくなってしまいました。ただ、ファシリテーターの方々の力が大きかったと思います。限られた時間でしたが、それぞれのグループで独自のアイデアが出てきて、よくまとまっていたと思います。

記録　鶴田　香也乃

グループＡの議事録

構成メンバー：古野克彦（ファシリテーター）・小島（記録）
古居有三・丹羽修

古野：　前回までのまとめとして､次のようにまとめてみたいと思います。全体的には､「南吉が夢見てたあたたかい心」がテーマ。具体的には、たくさん出たアイデアの中から、七夕神社をピックアップしたい。

古居：　前回休んでしまったので絞り込みまでの過程はわかりませんが、花ノ木商店街で七夕神社の活用に取り組んでいるので題材としてはおもしろいですね。ただ、南吉とのかかわり合いが難しいのでは？

古野：　七夕神社で「夢の報告」ができればつながっていく。神社だから報告は「奉告」。七夕まつりは「お願い」だが、この企画ではもう一歩入り込んだところで、たとえば「成就できました」「ありがとう」などと神に報告する。これを七夕まつりの時に連携した方が良いのか、違う時の方がいいのかは吟味しないといけませんが。七夕神社では、縁日のようなイベントはありますか？

古居：　普段はありませんが、今年の七夕まつりの際には初めて出店が並びました。七夕まつりは多くの人が訪れるので、まずはそこで絡めてもいいかもしれない。

古野：　前回のアイデアでお神楽というのもありました。島根県の石見神楽では、地域の人が創作お神楽を発表して盛り上がる。子どもたちもいろんな衣装を作って発表します。その子どもたちにおじいさん、おばあさんが協力して地域が一体になります。あのようなイベントも同時にできると良いですが、七夕神社にはお神楽はありますか？

小島：　昨年までは七夕まつりの最終日に交流広場でお神楽を披露していましたが、今年初めて、七夕神社で一部の子どもたちが発表しました。ただ、大々的にはやっていません。

古居：　安城には三河万歳があります。

古野：　七夕神社ならではのやり方で、お神楽をブランド化していけるとおもしろい。創作お神楽を提案していきませんか？

グループＡの議事録

古居：　いいのではないでしょうか。

古野：　では、私が紙にまとめていきますので、古居さんに発表をお願いしたい。

● Ａグループ　発表　（発表者：古居有三）

先ほど、Ｄグループの野村さんが、南吉は安城では何もないと言っていましたが、「夢見たあたたかい心」があったんです。あなたの「夢見るこころ」を育むということをコンセプトに、七夕神社での「奉告」と「創作お神楽」を提案したい。七夕は「願いごと」のまつりですが、「願いごと」はどこか他力本願なところがあります。それを「奉告」することで、願いごとが叶うという部分まで持ち込めることになります。その願いごとも、できれば物欲ではなく、子どもたちの夢ですとか、子どもたちを中心に七夕神社で「奉告」していければと思います。「夢の奉告」です。そして境内では、時代背景を意識して昭和の頃のあたたかい風景を作っていく。島根県の石見神楽を参考に、創作お神楽を発表していく。これはマスコミにも取り上げられやすいではないかと思います。今までの七夕神社でのイベントも継続して行い、ハイライトとしてこの企画を展開できると良いかと思っています。

グループＢの議事録

構成メンバー：神谷　敏幸（ファシリテーター）　深谷（記録）
菅沼賢治・大見まゆみ・澤田喜久子・石原玉子

神谷：　前回までのワークショップの内容をまとめてみました。まずはこれをご覧いただき、前回までの情報の整理と共有をしましょう。
（資料を読み上げる。）
南吉を広く知ってもらうためには様々な人たちが関わりあって、南吉のことを知ってもらう一大ページェントのようなイベントを行うなどの方策が必要だと思います。今回はそのイベントについてもう少し具体的にしていきたいと思います。安城市内の南吉を知らない人をターゲットにしながら、ニュースになるようなコンテンツが必要になります。それを踏まえると、南吉の語り部は子どもがいいと思います。教育や道徳に繋がります。

澤田：　南吉のことを知ってもらうにはやはり文学を知ってもらわないといけないと思います。南吉の良さはすべて書かれた本の中に詰まっています。先ずは作品を読んでほしい。

大見：　主人などは南吉の作品についてはほとんど興味がないようなのですが（笑）
下宿先であるので、本当に様々な人たちが訪れていただけます。それがうれしいようで、私は南吉の作品が好きなので、澤田さんのお話には賛成です。

神谷：　南吉に興味が薄い人たちに先ずは作品を読んでというのはハードルが高いように思われます。やはり、興味が薄い人たちへの呼びかけは少し切り口を変えた方がいいと思います。例えば読み聞かせとかはいかがですか？

澤田：　小学校での朗読会は行っていると思いますし、大見さんの下宿先でも開催しています。

大見：　新田小学校の児童さんが下宿先でやってくれました。とてもよかったです。

石原：　小学生の時にやっていて、その後は途切れてしまうのはもったいないですね。

澤田：　中学生になると部活とかで忙しくなるのが原因ですね。

グループＢの議事録

菅沼：　僕は正直、新美南吉に興味が薄いです。宮沢賢治なら青年期によく読んでました。たぶん感性に合っていたからでしょう。しかし新美南吉は小学校の頃に習っただけでその後、読んだこともありません。だから、南吉のことを広めたいということ自体が腑に落ちていないのです。南吉に興味を持つためにはどうしたらいいのですか？

澤田：　それなら少年を題材にした作品を読んで下さい。そうすると思春期の男の子の心情が描かれているから共感できるはずです。

菅沼：　やはり作品を読まないといけませんか・・・。正直人に勧められた本を読み切る自信がないのですが。

大見：　少年を題材にした作品を私もおススメします。ぜひ読んで下さい。

澤田：　私たちの団体の中でも少年期の主人公の作品を読んで、南吉作品のファンになった男性がたくさんいますよ。今ではむしろ私たちより熱心なくらいです（笑）

神谷：　特に男性はと言ってしまいますが、興味の薄い人たちに「いきなり作品を読んで。」というのはどうしても抵抗があると思います。菅沼さんのような人に南吉に興味をもってもらう方法を考えてみましょう。

深谷：　例えば映画化するとかはいかがでしょう？映画を見て、南吉に興味をもったら原作を読み返すなどできると思います。すそ野を広げられると思います。

菅沼：　それなら、飛び込みやすい気はします。

大見：　新美南吉の映画なら市民映画ですが制作中です。色々と制約があったと聞いてますが、来年試写会があります。

神谷：　市民映画もとても良いのですが、ここは妻夫木聡や亀梨が出ている、ドキュメントをモチーフにした野球映画のように大物俳優に出演してもらえるような映画がいいですね。」

神谷：　南吉の日記があると聞きましたが、そこに出てくるお店はまだまだ現存するのでしょうか？そこでは何かできないでしょうか？

グループＢの議事録

石原：　下宿先から高校まで通った道にはまだまだお店がたくさんあります。

澤田：　横田歯科さんとかですね。（エピソード披露）

神谷：　南吉の日記に書かれているお店を巡るツアーなんて面白そうじゃないですか？そこに、南吉オリジナルお菓子などの南吉グルメや南吉土産。ゆるキャラのきーぼーもいてなんてできないでしょうか？南吉先生がいっぱいいるのもいいかもしれません。

神谷：　ここまででてきたものと、いままでのものを少し整理してまとめてみます。
①南吉を知らない、興味がない市民にいかに興味を持たせるのか？
②南吉ファンに安城らしさと活躍の場所をもってもらう。
大きな柱はこの２本です。
①については南吉映画の製作
②については南吉を語れる語り部の育成。
これにはせっかく小学校で学ぶのだから、中高校・若者・高齢者と繋がってもらいたいです。両方に関係しますが下宿先から学校までの商店街で行う「南吉日記エピソードツアー」の開催。さらに南吉童話と南吉の好きなクラシックを融合させた一大ページェントを毎年、年１回行います。これには有名なゲストを呼んで朗読会や市民の音楽、踊り、演奏、お芝居などが詰め込まれます。
このようにまとめさせていただきますが、みなさんよろしいでしょうか？

全員：　わかりました。

グループＣの議事録

構成メンバー：石森　克往（ファシリテーター）　榊原（記録）
野田全尾・鈴木雅喜・白谷隆子・大山湖龍・鈴木利夫

石森：　前回までの内容をまとめた資料により説明。初回、白谷さんの言われた『南吉を知らない』市民が多いということから情報誌を作成してみてはいかがですかと提案。まちの事、南吉の事を掲載し市民に受け入れられる様な情報を満載する。一部の人しか知らない情報などを発信していく、南吉のエピソードなどあまり知らない情報も合わせて掲載し、本が語り部のかわりになるようにしていく。モニュメント等を作ることよりも、本当の情報を発信して人を集めた方が来街者の満足度は間違えなく良くなるはずである。とにかく南吉好きを増やさないことには人が呼べない。商店街（まち情報）と南吉が共存するものが必要である。（商店街は商店街、南吉は南吉ではダメ）

大山：　安城市民は皆、新美南吉は知っている。（市が莫大なお金を投入しているから）しかし南吉は半田市の素材で、都築弥厚の方を応援してはどうか。
市民は安城が大好きである。（住みよいなどの理由から）これ以上、南吉に対してお金を投入すべきなのか疑問である。

野田：　南吉を使ってまちのＰＲをしていけばいいのではないか。

大山：　まちなかのベンチを増やし小さな南吉マーク（詩）などを描き毎日南吉に触れ合う仕掛けづくりをしてみるなど低コストで大きなＰＲ効果が得られるのでは。

石森：　南吉を使ってどの様にまちを元気にするかが重要で、安城をベースに南吉をからめていくイメージで発想すれば良い。

鈴木雅：　南吉を自分たちのいい形で利用していけばよい。

野田：　フリーペーパーを作って置いておくだけでは大したＰＲ効果がない。るるぶ安城、地球の歩き方安城などのビックネームがあると効果も変わる。

大山：　思い切って安城市を『南吉市』に変えてみてはどうか。おおくの人の記憶に残すことが重要に思える。

グループＣの議事録

鈴木雅：南吉の着ぐるみで人を呼んではどうか。モニュメントを作るのであれば名古屋のななちゃん人形のようなＪＲをまたぐようなインパクトのあるものが良い。

石森：　来街者が訪れても駅にはあまり情報がない。駅から見て魅力のあるものが目に入らなければ人が降りないのではないか。ラジオ局を作っても面白いのでは。とにか情報発信をしなければならない。

野田：　YouTube など子供たちが多く目にするメディアを使ってみるのもよい方法。

白谷：　『やろまい南吉』を合言葉に広報に毎回１ページ南吉の作品、ひととなりなどを掲載し続け、ある程度市民に浸透したら『南吉検定』を開催する。最終的に南吉ソムムリエ（仮称）の称号を与え語り部をどんどん増やしていければよいのでは。

皆が同調しまとまる。

グループDの議事録

構成メンバー：大野智子・木村ともえ（ファシリテーター）
沓名好子・野村直人・長谷部裕之・鈴木ゆかり・伊藤英明

大野：　今日はきちんと具体化しなければなりません。南吉だけにこだわらず、安城の「語り部」を養成したい。安城市を全国の教育の中のモデルになるようにしたいと思う。昨今では電車に乗っても優先席に若い子が平然と座って下を向いて一心にスマホをいじっています。次世代の子供たちを育てていかなければいけません。それにはまず大人が学ばなければ…。そして安城から全国に発信していくのです。

木村：　前回の付箋のコピーをお持ちしました。（資料提示）

大野：　婦人画報に南吉のことが出ていたので持ってきました。（資料提示）ここからが安城のことが掲載されています。（半田と安城が掲載）

長谷部：安城市内に当時の名残のあるものはなにかありますか？

野村：　私はどうも「南吉が青春を過ごしたまち」というものに疑問を感じるんですよ。南吉は安城に住んでいた時にはすでにいい大人なんですよ。青春時代というのは南吉が教えた女学生のことであって南吉ではないんじゃないですかね。
（ここで野村さんの話を遮るように大野さんが話し始めたので話初めが聞き取れず）

大野：　（資料の話の続き？）
（野村さんもそのまま話し続けてみえましたが、大野さんのほうに切り替えます）

伊藤：　半田とタイアップとかはしないのか？語り部を小学生にやらせるのはどうですか？

大野：　とてもいいと思います。遠野では語り部千人プロジェクトというのがあるんです。語り部を養成するのです。遠野とタイアップしてもいいですよね。
南吉だけではなく、安城の歴史や食や農業をそれぞれ得意分野を語れる人たちを養成してライセンスを与えるんです。そしてきちんと認証して認定書も与えるんです。分野に分けてもいいですよね。南吉を語れる人、歴史を語れる人、食について語れる人など…。それは子供たちでもいいし、大人はもちろん、お年寄りでもいいんです。子供たちを語り部として育てるには大人も勉強しなければなりま

グループＤの議事録

せん。

沓名：　私たちは南吉かるたのジャンボかるたを作りました。それでかるた取りをして、その都度取り札をみんなに見せてひとつひとつその物語をお話しするんです。

大野：　このかるたもよいのですがせっかく良い素材があっても活用法が確立できていないですよね。だからこそ、物語も語れる語り部たちを育てていかなければ…。安城では子供たちが「語り部」として活躍しているという話題性もできるじゃないですか。私は旅人なので心の故郷が欲しいんです。安城が魂の帰れる場所として盛り上げてほしいんです。産まれて 10 日の赤ちゃんにお母さんがお話を聞かせると脳がほんわか膨らむんですって。他人ではそうはならないそうです。安城の良いところを子供たちに伝えていくべきです。お母さんやお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんが…。
心豊かな子供たちを育てていけば、世界にも誇れると思いますよ。

伊藤：　昔安城にも 100ｋｍマラソンがありましたよ。今は無いみたいですが…。

沓名：　沿道で応援してくれる人がいないとねぇ…。
子供とお年寄りを語り部として育成するには私たち大人が勉強しないとね。

大野：　みんなが…特に大人がやる気にならないとね。子供とお年寄りを語り部として育成するには私たち大人が勉強しないとね。

沓名：　一番大事なのは語り部を育てることですよね。

鈴木：　私が子育てをしていた時に諺とかを一日にひとつづつ読ませていました。

沓名：　うちの孫の場合はこのかるた（南吉かるた）ですが子供が読んで親が絵札をとるようにしています。この南吉かるたは賞を受賞しているんです。

長谷部：　具体的にはどうしますか。

大野：　事務所をまず設置します。そして「語り部を育てるプロジェクト」を立ち上げるんです。遠野では語り部のおばあちゃんが子供たちに語ります。子供たちも語り部になるつもりでいますから一生懸命に聞いているんです。

グループＤの議事録

長谷部：　語り部はただしゃべるだけなんですか？

大野：　そうです。伝承する人たちのことを語り部といいます。

長谷部：　ただしゃべるだけでなくオリジナルのものにしてもいいんじゃない？パフォーマンスしながら語るとか…。

沓名：　南吉に限らず、その人が求めているものを聞くことも語り部の役目なのでは？そして求めているものにあった語り部が語るのが一番よいのでは？

大野：　それ、すごくいい意見です。まさにそれです。
はい、そろそろまとめましょう。
（野村さんと木村さんが別路線で話をしていましたが書き留められませんでした）

沓名：　安城語り部を作ろうみたいなタイトルで（仮称）ってつけてもいいじゃない？

野村：　すみませんね。全然話に加わらなくて別の話をしていて…。
木村さんとなんとなく話がまとまったんでそちらを発表します。

大野：　いいんじゃないですか。二つの意見が出たということで…。
（野村さんと木村さんで駅前童話コースをまとめることになり、大野さん沓名さん長谷部さん伊藤さん鈴木さんで安城語り部講座をまとめることになりました）

大野：　七夕とかで子供たちが語り部として語る。本人も楽しいし、周りも楽しくなるんです…絶対に。語り部になるには条件が要ります。安城在住、もしくは在勤であること。大人でも、子供でも、お年寄りでもＯＫです。絶対条件は安城在住、在勤であること。

沓名：　子供たちを育てる大人やお年寄りが必要ですよね。

長谷部：　琵琶とかを奏でながら語るとか独自に育てても面白いよね。

大野：　琵琶法師じゃないですか、それ。

長谷部：　安城にはこんな語り部がいるって有名になるよね。

グループDの議事録

【発表】

タイトル：安城語り部講座

沓名：　安城の語り部講座を作ります。まず、事務所を作り、語り部を募集します。
スクーリングを行い、認定試験を実施して合格者には認定書を与えます。
いろいろな語り部があると思います。南吉に限らず、求められている話をおもてなしの心で語る。そういったエキスパートを育成していきます。

タイトル：駅前童話コース

野村：　前提は語り部です。私が市外の人に安城を紹介するとき、山なし、川なし、何もなしで梨はある。そうとしか紹介できないんです。私は南吉が青春を過ごした町というフレーズに違和感があります。安城市には南吉の童話はないんです。南吉が生まれたわけでもない。女学生たちの青春時代をともに過ごしただけです。今使えるものは壁画だけですが、童話か南吉の生活風景です。ですから壁画をめぐりながら語り部に語ってもらうのです。
季節に応じて農業とコラボしてコースを作ります。壁画をめぐりながらどこかのお店で季節に応じた品物を提供してもらう。イチジクだったり、梨だったり、米屋さんでおにぎりだったり…。

平成２７年３月　安城市企画政策課

受託会社　（株）安城スタイル
（株）ＪＴＢ中部　木村　ともえ
（株）ＪＴＢプロモーション　熊岡　猛
（株）ＪＴＢプロモーション　高本　和哉
（株）にぎわい総合研究所　古野　克彦
フリーコーディネーター　大野　智子
（有）オフィスビッグバン　神谷　敏幸
プランニングオフィス　レスタウロ・ピウ　石森　克住
ファンボンズ　西川　鉄也
安城市商工課
安城市南明治整備課
安城商工会議所
安城商工会議所青年部
安城商工会議所女性会
朝日町商店街振興組合
セントラル商店街振興組合
末広商店街振興組合
花ノ木商店街振興組合
日の出商店街振興組合
本通り商店街振興組合
御幸商店街振興組合
安城駅前元気会
壱番会
末広地区街づくり協議会
花ノ木街づくり協議会
新美南吉に親しむ会
安城ご当地アイドルプロジェクト
南吉の下宿先家主